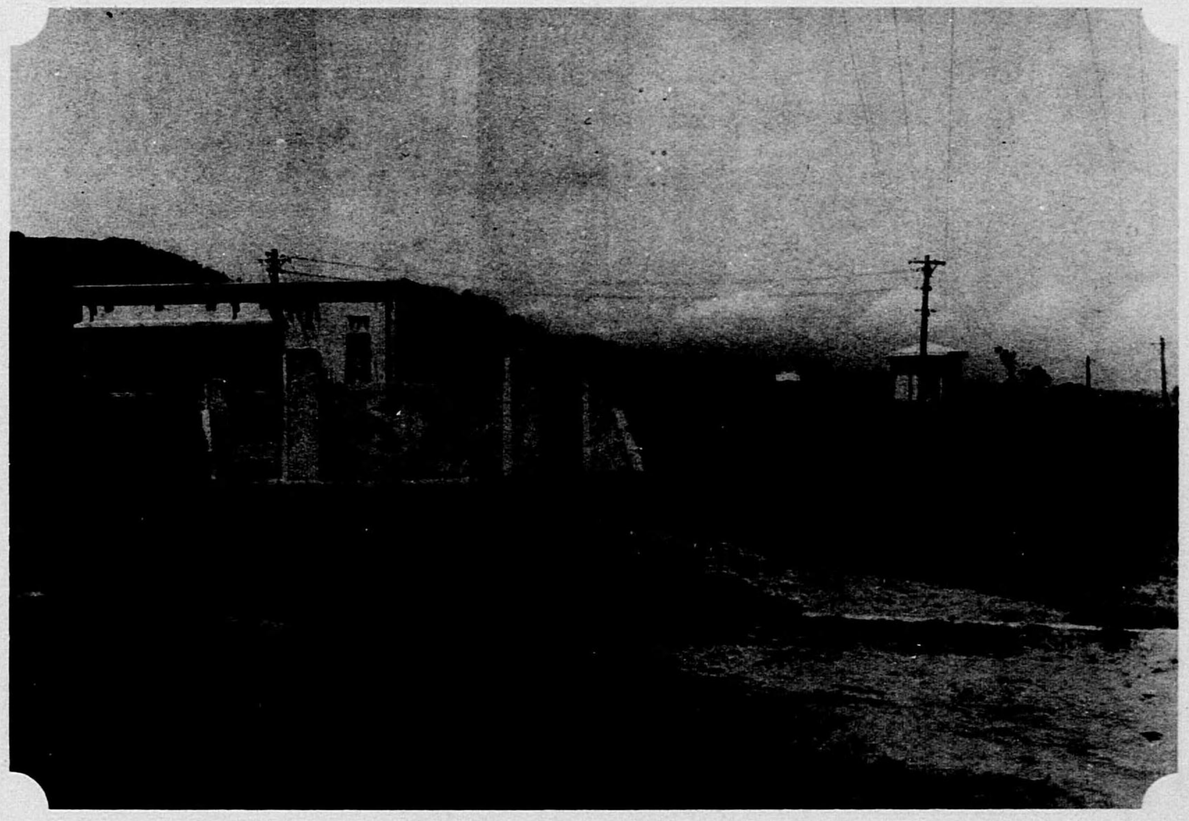
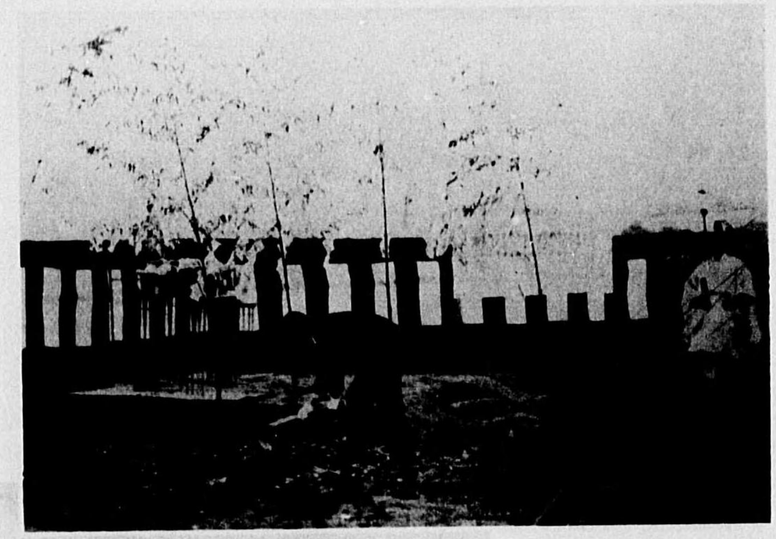
519.1-C55ウ
1200500074510 4

519.1
C55

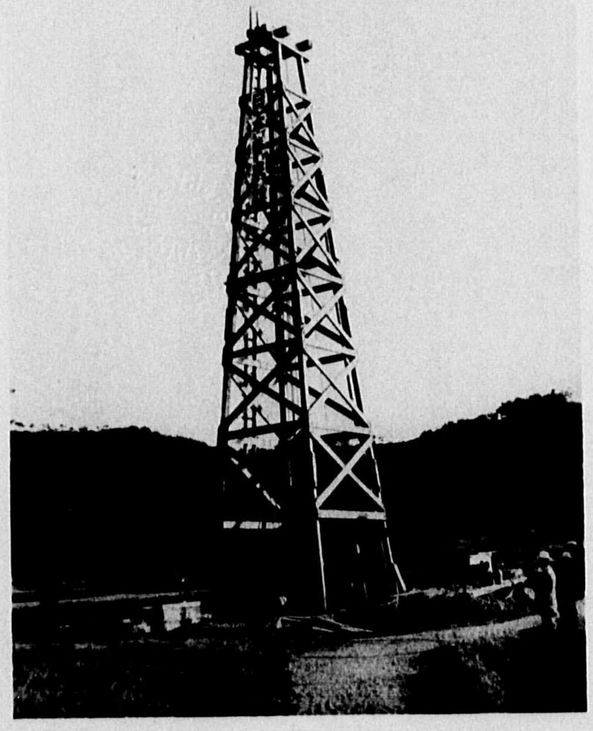
銚子市上水道誌



淨水場全景

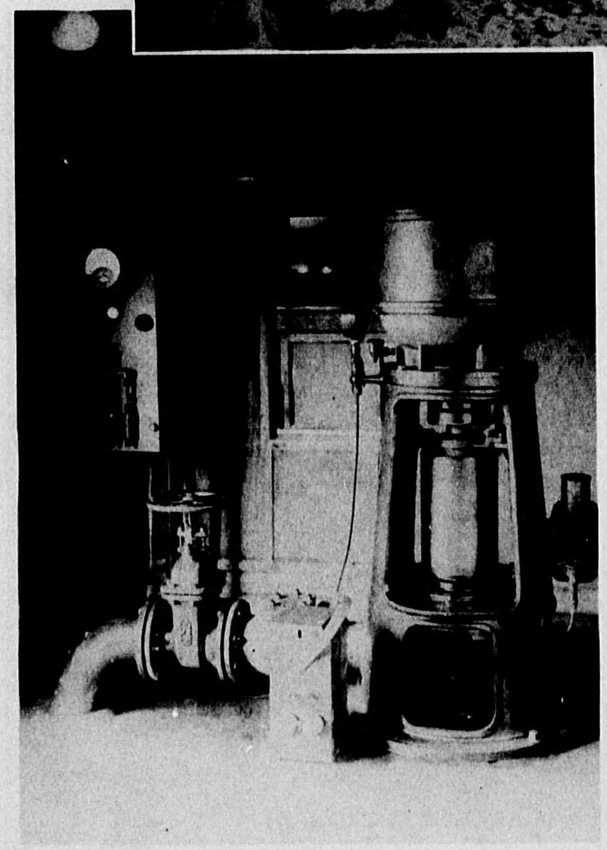


↑ 起工式



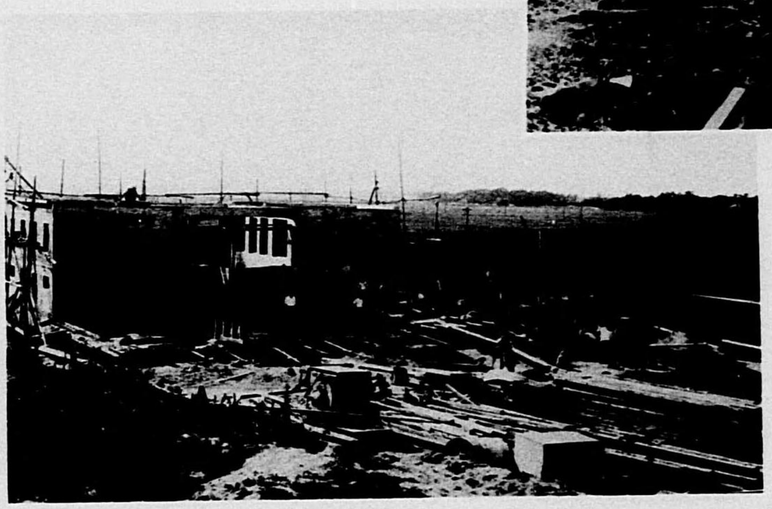
淨水場工事（其ノ一）←

鑿井工事（其ノ二）→

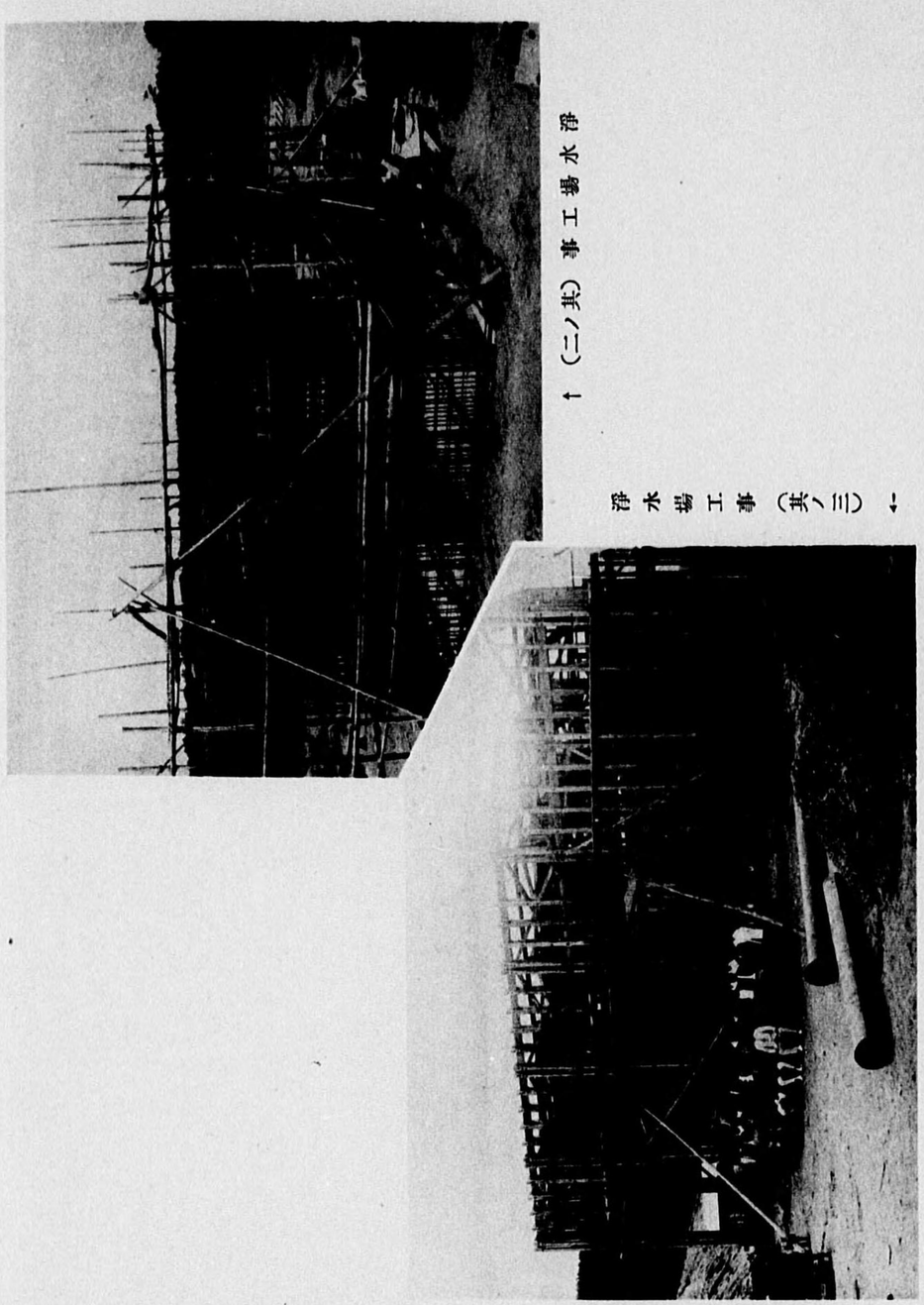


鑿井喞筒←

↑導水管布設工事



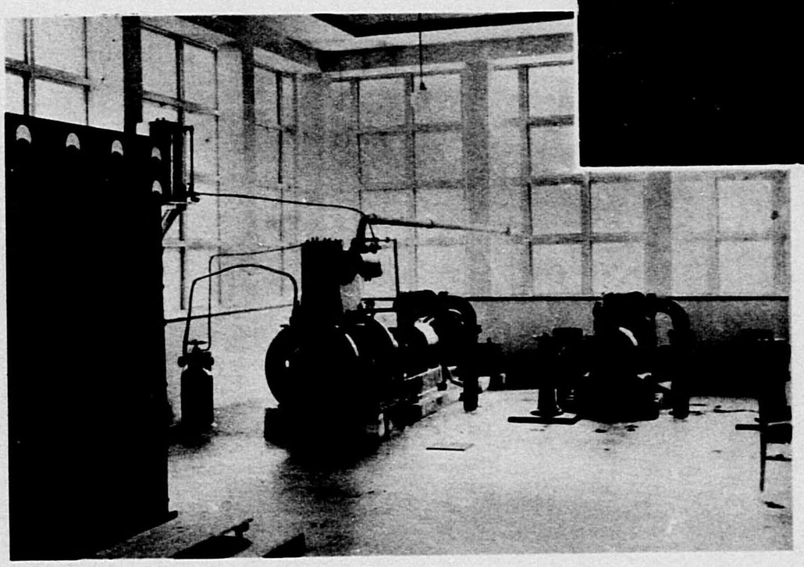
淨水場工事（其ノ一）←



↑（二ノ其）事工場水浄

浄水場工事（其ノ三）←

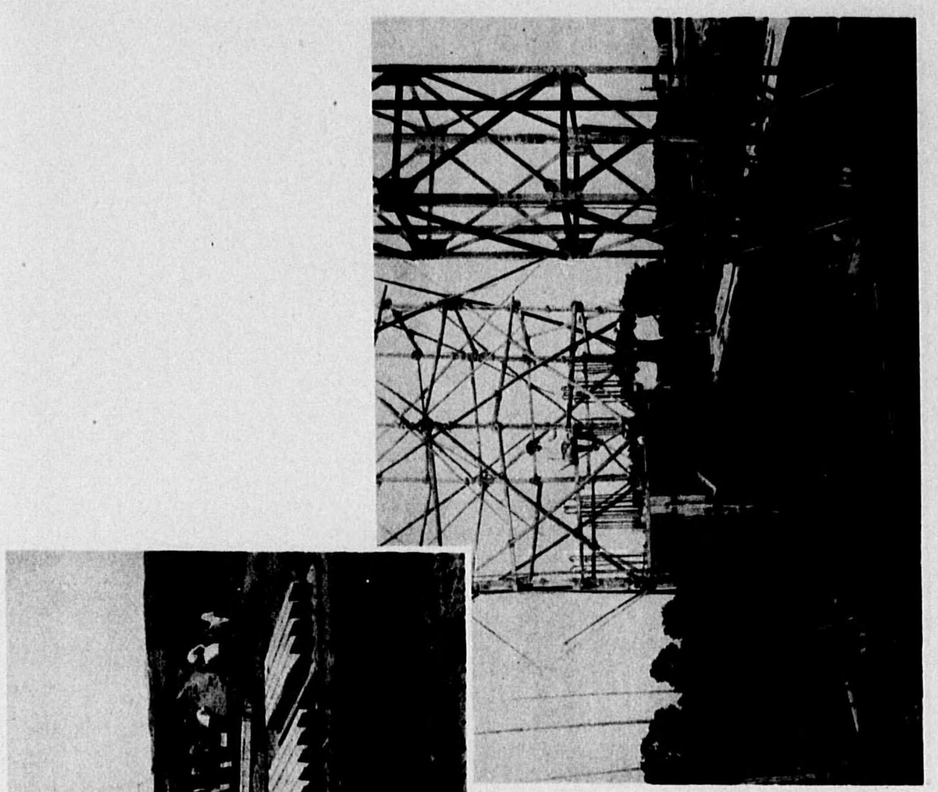
↑ 淨水池竝鹽素滅菌室



淨水場內部←

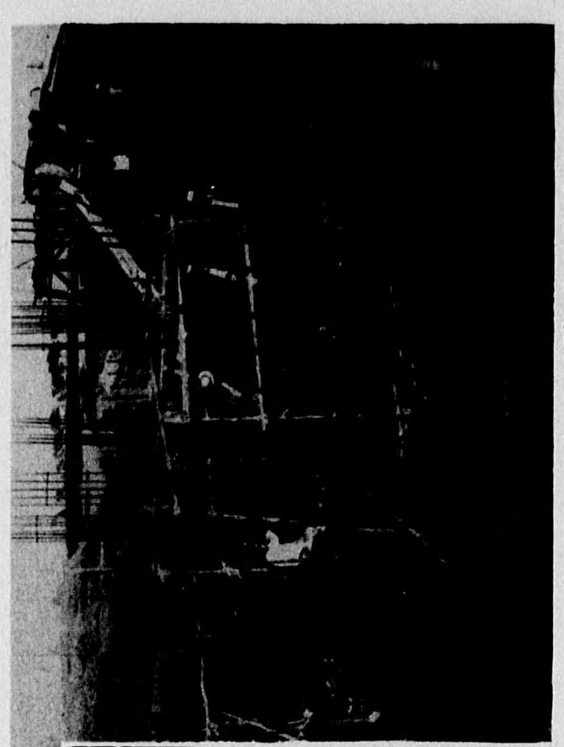
送水管布設工事 ←

配水池工事（其ノ一） →



↑（二ノ其）配水池工事

↑（二ノ其）配水池工事



↑ 配水池工事（其ノ四）

↑ 配水管鋳造伏越工事

市長　川村芳次

收入役　齋藤國衛

助役　渡邊章六

顧問
河野愛香

水道課長
技師　鈴木三郎

第一工區主任
技手　吉澤金造

庶務經理主任
書記　野口彌六

市會議長
大里庄治郎

市會副議長
寺野慎助

前市會副議長
現市會議員
石上新藤

市會議員
佐藤千代松

市會議員
根本松太郎

市會議員
海保仙吉

市會議員
加瀬喜衞

市會議員
鎌倉國松

市會議員
岩瀬寅松

市會議員
石毛佐太郎

市會議員
野口喜久司

市會議員
土手伊平

（議席順）

市會議員
辻野傳松

市會議員
加瀨道之助

市會議員
篠崎喜太郎

市會議員
越川賢司

市會議員
山口象治

市會議員
新川米吉

市會議員
宇佐美清治

市會議員
寺井久四郎

市會議員
廣野茂兵衞

（議席順）

市會議員
茂本宮

市會議員
渡邊賢造

市會議員
加瀨政之助

市會議員
信太政治

市會議員
渡邊政治

市會議員
櫻井米吉

市會議員
宮內安藏

市會議員
小林與助

市會議員
飯塚虎之助

（議席順）

前市會議員
七傳石明

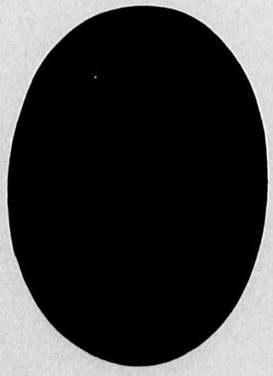
市會議員
椎名隆

市會議員
信田林藏

前市會議員
治周井酒

市會議員
治隆原吉

市會議員
良純野上



前市會議員
郎太福塚篠

市會議員
吉清口山

市會議員
三吏枝床

（議席順）

前市會議員
加瀨龜藏

前市會議員
大岩長松

前市會議員
石井重吉

前市會議員
田邊五郎松

前市會議員
高木萬太郎

前市會議員
加瀨元彥

前市會議員
岡本善夫

前市會議員
樋口忠兵衛

929
54

序

惟ふに都市は一國産業經濟文化の中心にして幾多の施設を要すると雖就中上水道の設備は市民の福利を增進し市勢の進展上缺くへからざるは勿論國土防衞上亦必須の要件にして實に都市發展の根幹たりと謂ふも過言にあらざるべし

由來本市は利根沿岸に位し水質極めて不良にして飲料に適するもの少なく市民の保健衞生上洵に憂慮に堪えざるものありたると共に市利施行以來產業都市として一躍樞要なる地位を占むるに至り生產額著しく膨脹し年と共に隆昌に趣き殊に近く竣工を告げんとする銚子築港工事の完成を目捷の間に控へて更に一段の飛躍を見んとする機に際し上水道の布設は最も急務とせし所なり

茲に於て市は上水道布設計畫を樹立し總工費六拾五萬圓の巨費を投じて實に本市

空前の一大事業に着手せり爾來三ケ年今日之か事業完成の跡を顧るに平々坦々何等
の苦難なかりしが如きも時恰も支那事變に際會し物價の昂騰鐵材の不足資金融通難
等凡ゆる艱難に遭遇し之が實施に當りては幾多の苦心を要したるものありたり然り
と雖も幸に關係當局の熱誠なる援助市會の圓滿なる協力市民の深き理解と相俟つて
豫期以上の成果を擧げ永く福祉を後世市民に傳ふることを得たるは眞に本市の欣幸
とする所なり

茲に本市空前の大事業を永く記念する爲本誌を編纂して記錄の散逸を防くも豈徒
事ならざるへし

一言記して序となす

昭和十六年八月

銚子市長　川村芳次

凡例

一、本誌は昭和九年水道布設企劃の當初より事業完了給水開始に至
る迄の經過を記述せり

一、記述事項は遺漏なきを期したりと雖も資料の饒否により精粗の
恨なき能はず

一、資料は市役所保存の文書に據り概ね原文のまゝ輯錄し事實粉飾
の疑を避けたり

銚子市上水道誌

目次

第一章　概説……一
　第一節　市の概観……一
　第二節　水道布設沿革の概要……三
第二章　布設企畫……五
　第一節　上水道の起興……五
　第二節　準備調査……一一
第三章　工事計畫……一七
　第一節　設計調査……一七
　第二節　市會議決……二八
　第三節　布設認可……六六

第四節　起債許可……六九
第五節　國庫補助……七四
第六節　縣費補助……一一一
第四章　實施計畫……一一五
第一節　實施設計認可……一一五
第二節　實施設計……一一七
第五章　施工……一二一
第一節　水源……一二一
一、鑿井……一二一
二、取水喞筒……一二三
三、導水管……一二三
第二節　淨水場……一二三
一、急速濾過池……一二四
二、淨水場上家(喞筒場)……一二四
三、淨水池……一二五
四、送水喞筒……一二八
五、配電盤設備……一二九
六、送水管……一三〇
第三節　給水場……一三〇
一、配水池……一三〇
第四節　配水管布設……一三一
第五節　建築……一三一七
第六章　財政……一三四五
第一節　財政計畫……一三四五
第二節　繼續年期及支出方法……一三六一
第三節　各年度豫算及決算……一三七四
第四節　起債……一四〇六
第七章　起工式及竣工式……一四三九

目次

第一節　起工式……四三九
第二節　竣工式……四四九
第八章　實施機關……四六三
第一節　水道布設臨時委員會……四六三
第二節　職員……四六五
第三節　規程……四六七
第九章　用地……四七三
第一節　用地買收……四七三
第二節　用地面積及價格……四七四
第十章　給水……四八一
第一節　使用條例……四八一
第二節　給水開始……四九四
第三節　工事完成後第一年經營豫算竝機關……五〇〇

銚子市上水道誌

第一章　概說

第一節　市の概觀

本市は千葉縣の東端東經百四十度五十分北緯三十五度四十四分に位し北は大利根河口を擁して茨城縣波崎町と相對し南は九十九里濱北は鹿島灘を連りて渺茫たる太平洋に望む。

出地概ね平坦にして氣候溫和寒暑の差少なく雨量に富み地味肥沃加ふるに風光絕佳にして四季を通じ觀光客絕ゆることなし。

抑々本市の創始は文獻の明徵すべきものなきも鎌倉時代既に部落を成し三崎莊本城鄕等に隷屬し住民素朴漁農に從事せしものの如く德川時代に至り漸次市街を形成して殷賑を極むるに至れり。

明治維新後は一時新治縣に屬したるも明治八年千葉縣に轉屬し次で明治二十二年町村制實施に伴ひ銚子町本銚子町西銚子町豐浦村の三町一村に分れ爾來戶口逐年遞增し市況亦著しく隆昌を呈するに至りたるを以て昭和八年二月十一日紀元の佳節をトし右四ヶ町村を廢して市制を施行し更に昭和十二年二月十一日隣接高神海上の二ヶ村

を併合して市域を擴大し面積二四平方粁より三七平方粁に人口四八、三五二人より六五、五三八人に增加し當時全國一四八市中實に第七〇位を占め前途洋々たる大銚子市の實現を見るに至れり。

交通は往昔より利根川に依る水運の便開け銚子港は江戸に至る要港として殷賑を極めしが、明治七年新に銚子東京間汽船運輸の途開かれ次で明治三十年總武本線の開通大正二年私設銚子鐵道、昭和八年三月佐松線全通を見るに至りて水陸運輸交通の利便を增大し市勢頓に活況を呈する至れり。

産業は遠く元和の昔醬油醸造業此地に發達し爾來水産業と相俟つて本市の二大重要産業たり醬油醸造業は自然の氣候風土に惠まれ特異の歴史的發達を示したるものにして、其の風味と香氣とに於て全國に名聲嘖々たるものあるは普く知らるる處なり。水産業に在りては本邦に於ける豐富なる一大漁場を控へ夙に其の名を海外に馳せ知られ加ふるに最近之に伴ふ製造加工業亦頓に殷賑を加ふるに至れり。其他甘藷の栽培、饂表、澱粉の加工業等特異の傳統的發達を示し之に伴ふ商業の發展亦頗る活況を呈せり。

昭和八年十一月都市計劃區域に指定せられ、既に道路網業態別地區竝に風致區域の決定を見たると共に昭和十年六月には銚子半島一帶を縣立公園に指定せられ、本市將來の都市計畫を樹立せられたり、其他昭和十一年十二月一日には下志津飛行學校銚子分教場の開校せらるゝあり、超えて昭和十二年八月十六日には銚子憲兵分遣隊を設置せられ、國防上亦極めて樞要なる地位を占むに至れり。

殊に大正十三年以來總工費五百九十八萬圓を投じて施行中の漁港修築工事は近く完成を見んとし、將來本市水産業の劃期的發展を約束せらるゝと共に他面凡ゆる文化施設の擴充躍進と相俟つて新興都市の意義將に旺盛の氣宇にあるを看る此の時に於て空前の事業たる我が水道布設工事の完成を見るに至りたるは本市の前途誠に洋々たりと謂ふべきなり。

第二節　水道布設沿革の概要

本市は一般に水質不良にして飲料に適せず昭和九年市内一千餘戸の井戸に就き其の水質檢査を施行したる結果飲料水に適せざるもの實に八〇パーセントの多きを算せり。之が爲從來飲料水に缺乏せる地域内の一部市民は或は遠方の井戸に淨水を求めて之を運搬飲用するものありたるも其の大部分は水質不良なる飲料水を使用するの餘儀なき狀態にありたるを以て之が衛生上に及ぼす影響尠からざるものあり、加ふるに利根川に近接せる地域を除くの外自然の用水を缺き防火の設備亦完からざるを以て、一朝火災起らんか水量の不足は忽ち戰慄すべき慘禍を惹起するに至るべきは明かなる事實なり。市はこゝに深く顧みる處あり、殊に本市の主要産業たる醬油醸造業竝水産業を始めとして、各種の産業施設は一として清淨にして豐富なる水を要求せざるものなく、殊に漁港修築工事の如きは近く其の竣工を告げんとするに當り、港内出入の船舶に對して供給すべき給水設備に至りては殆んど見るべきものなく、其の不利不便尠からざるものあり、漁港將來の發展上一大支障を招來するは勿論都市諸般の施設をして其の機能を全からしむる上に上水道布設の急務なるを認め、市民の要望亦次第に高まり遂に昭和十年度市會は之が調査費を豫算に計上するに至れり。是實に本市上水道布設の端緒なりとす。而して市は爾來愼重

なる研究と周到なる調査を遂げ以て堅實なる實施計畫を樹て翌昭和十一年八月十四日市會の議決を經て同年八月三十一日布設認可竝に起債許可稟請の手續を了し、越えて昭和十二年三月二十五日遂に布設の件を認可せられ、又同日附を以て起債許可の指令に接し愈々起工の準備に着手するに至れり。乃ち市會議員全員の臨時水道布設委員規程を設けて委員を選任し、又臨時水道課を設置して各種の規程を制定し漸次吏員數を增加して其の分掌事務を明にしやがて萬般の準備全く成り先づ水道用地の買收を了し同年十二月二十四日嚴肅なる起工式を擧行せり。爾來一年有餘終始各水道委員の公正熱烈なる支持の下に關係吏員鋭意勵精一日の如く諸般工事の進捗に努力せし結果幸に何等の支障なく昭和十四年三月三十一日全工事の竣工を告げ、同年四月十一日落成式を擧行するに至れり。

以上は工事沿革の概要を記述したるものなるが以下更に章を逐ふて其の詳細を叙述せんとす。

第二章　布設企畫

第一節　上水道の起興

昭和八年二月本市市制を施行するや、初代市長川村芳次夙に本市に上水道の施設無きを憂ひ、水道は近代都市に於ける必須要件にして保健衞生火防上緊切の事業たるは勿論產業發展上一日も忽諸に附すべからざるを認め、之が計畫樹立の爲、先づ調査資料を各方面に求むると共に昭和九年九月市內一千戶に亙り本縣衞生課より係官の派遣を求めて井水の水質檢査を施行し、一ケ月餘に亙りて檢査の結果水質不良にして飲料水に適せざるもの實に八〇パーセントの多きに達せり。こゝに於て市は上水道布設の一層急務たることを認め別記「銚子市水道建設に關する綜合的考察」を發表して之に對する各方面の注意を喚起し、且つ意見を徵したるに或は團體とし或は個人として續々水道布設要望の陳情書を提出するに至れり。然も此の間一部に私設銚子水道株式會社設立運動の擡頭せるものありたるも大勢を動かすに足らず、市營直進論は遂に市民の輿論を占むるに至れり。

銚子市町別井水良否調（昭和九年十月調査）

一、井水試驗成績一覽表

町名 大別	井戸總數	試驗實數	比率	適	試驗數ニ對スル比率	不適	試驗數ニ對スル比率	煮沸シテ使用シ得ルモノ	不適中不適數ニ對スル比率	濾過シテ使用シ得ルモノ	不適中不適數ニ對スル比率	煮沸濾過同上	不適中不適數ニ對スル比率	全然不適ノモノ	不適數ニ對スル比率
中央	一、三五七	四三	三〇%	九九	二〇%	三三	八〇%	二四	四〇%	七	二一・二%			一六	五〇%
東	一、二四六	四〇一	四〇%	六八	一〇%	三三	九〇%	一四	四二%	一	一・四%			三	九一%
西	四二	九三	二〇%	三五	三八%	七	七〇%	三	四三%						
南	三八	一五	二五%	八	五〇%	三	七五%	一	五〇%						
總數	三、〇八三	一、〇九〇	三〇%	二一〇	一〇%	四一〇	八〇%	一四八	四三%	一一	一・三%	一	一%	二一	六四%

二、井水試驗町別調書

町名	井戸總數	試驗實數	適	不適	濾過シテ飲料ニ供シ得ルモノ	煮沸同上	濾過煮沸同上	全然不適
陣屋町	五六	一六		一六		五		一一
飯沼町	四四	一八		一五		八		七
南町	七九	二五		二五		五		二〇
馬場町	五一	一四		一二		四		八

町	井戸總數	試驗實數	適	不適	濾過シテ飲料ニ供シ得ルモノ	煮沸同上	濾過煮沸同上	全然不適
東町	三六	一二		一〇		四		六
後飯町	五〇	二二		一七		九		八
和田町	四五	二二		一四		一二		二
田中町	四九	二四		二一	一	五		一三
濱町	五七	二七		二四		六		一六
新地町	三二	一五		一五		八		一六
竹町	七九	三四		三四		一		三三
內濱町	七五	三五		三五		一		三三
港町	六〇	二六		二六				一六
本町	四五	二一		二一				一二
仲町	三四	一六		一六				一六
通町	二六	一三		一三				一三
橋本町	六五	二五		二〇				一八
清水町	九五	三六		二三				一三
植松町	八九	三〇		二四				一九
川口一丁目	九〇	三六		二八				一七
前宿町	九八	三三		二四				一三

| | | |

松本一丁目	四五	一〇	六	四	八	七	二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
同二丁目	五八	一五	七	八	七	四	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
同三丁目	三四	一一	四	七	四	三	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
本城一丁目	二八	八	三	五	三	五	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
同二丁目	五〇	一三	四	九	四	五	五	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
同三丁目	六二	一六	九	七	九	七	六	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
同五丁目		二		二		二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
長塚町	一四四	二〇	二	一八	二	一八	一二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
北小川町	五八	一三	八	五	一	五	四	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
愛宕町		一																	
八幡町		一		一		一	一												
春日町		二		二		二													
利根川		二		二		二													
計	三、〇八二	一、〇二〇	二一〇	八一〇	一	二六八	一一	五三〇											

三、新生町井水試験成績表

丁目	井戸總數	試驗實數	比率	適	試驗數ニ對スル比率	不適	試驗數ニ對スル比率	不適中煮沸シテ使用シ得ルモノ	不適數ニ對スル比率	不適中濾過煮沸シテ使用シ得ルモノ	不適數ニ對スル比率	不適中濾過シテ使用シ得ルモノ	不適數ニ對スル比率	全然不適	不適數ニ對スル比率
一丁目	一三三	四二	三三%	一	二・四%	四一	九七・六%	九	二〇%					三二	八〇%
二丁目	八八	三一	三四%	三	一〇%	二八	九〇%	七	二五%					二一	七五%
三丁目	八一	二六	三〇%	三	一二%	二三	八八%	八	三五%					一四	六〇%
計	三〇一	九九	三〇%	七	七%	九三	九三%	二四	二六%	一	一%	四・四%	一	六七	七三%

銚子市水道建設に關する綜合的考察

銚子市の現狀に鑑み、市は清淨にして豐富なる上水を市民に供給し保健衞生、火災豫防竝に産業振展に資し市民全般の眞の幸福と市永久の發展に供ふるの必要を切實に慮ひ之が計畫を進めつゝあるものでありますが特に其の必要なる所以を左に數項に分ちて之を掲げ參考に資せんとするものであります。

一、保健衞生上から見たる水道

(1) 市内の堀井戸は大體飲料不適　銚子市内の堀井戸は其の約八割は飲料不適の試驗證を附けられてゐます。殊に中には人體に有害であるものさへあるので健康上甚だ危險であると謂はねばなりません。

(參考) 甚だ不祥なることではありますが銚子市内に於ける死亡者の數は全國に於ける死亡者の率に對比し

て相當に多いことであります。卽ち全國の死亡者數は人口百人に付一人七分であるのに、我が銚子市の死亡者數は人口百人に付實に二人二分となります。故に之を全國の夫れに比すると人口百人に付〇人五分と云ふ增加になつてゐます。故に當市の人口五萬では他の比較よりも實に年に二百五十人餘計に死亡してゐる譯であります。其の原因が何れにあるかは俄かに判然しませんが常識的に考へて水から受くる影響が絶對にないとは誰人も斷言し得ないところであらうと思ひます。

(2) 堀井戸と汚水の浸透　普通の堀井戸には附近の汚水が浸透する處があるので衞生上危險であります。故に井戸を堀つた當時は極めて水質の良かつた水も其の後漸次水質が惡變して遂には飮料不適となつた例も尠くありませんが之等は附近の汚水の浸透に依つて左樣になつたものも少くないのを見受ける次第であります。水道は斯樣な危險は全然ありません。

(3) 堀井戸と傳染病の蔓延　普通の堀井戸は水面が空氣に暴露してゐるので、各種の傳染病菌が這入つたり又は汚水と共に菌が浸透して來たりして、各種の傳染病の媒介となる例が尠くない。チヨウチブスの如きは共同井戸の使用の數軒が一時に病氣に罹るやうな例も尠くないですが、水道には左樣なる危險は全然ありません。

二、漁港發展上から見たる水道

銚子漁港の修築は玆兩三年を以て完成を見んとしてゐますが、之が漁港の發展如何は陸上設備の完備するや否やに負ふところ甚だ多いのであります。就中船舶に對する良質豐富なる水を容易に供給することの出來る便宜が完全に伴ふにあらざれば到底將來漁港の發展を見ることは覺束ないと思ひます。今日他府縣から入港して來る漁船の如きは陸上の遠隔の井戸から水を船に運ばねばならぬので非能率的であり不便であり結局銚子港を批難してゐる有樣であります。斯くの如き有樣では有力なる漁船を他の地方から誘致すると言ふことは望み難いことにならうと思ひます。現今各地の漁港が競つて各種の設備を鞏へつゝある狀況に鑑みても一日も速かに水道の設備を完成し、名實共に立派なる漁港として大いに發展を期せしめなくてはならないことは全市民の責任であると思ひます。

(參考) 有力漁港に於ける給水狀況

(銚子漁港と比較的利害關係密接なる漁港のみを上げて調査したるもの)

港名	所在	上水道設備の有無
鹽釜	宮城縣	設備有り
石卷	同	同
氣仙沼	同	同
八戸	青森縣	目下計畫中
釜石	岩手縣	同
小名濱	福島縣	同
湊	茨城縣	工事實施方申請中

勝浦	千葉縣	工事中
三崎	神奈川縣	設備有り
燒津	靜岡縣	設備有り
清水	同	同
伊東	同	同
下關	山口縣	同
戸畑	福岡縣	同

三、産業振興上から見たる水道

産業は人間生活の基調であると共に地方開發の基調であります。殊に當地方が工業方面に向つて大いに發展を期せんとする爲には、水利の便を完全にすることが最も先決問題であると思ひます。卽ち良質の豐富なる水を容易に得らるゝにあらざれば到底其の産業發展は望み難いところであります。此の見地よりするも當市に於ける水道の必要なることは强く感ぜられます。

四、火災消防上から見たる水道

我銚子市に最近火災の頻發することは寔に遺憾に堪えないことでありますが、元來當市は火災に付ては甚だ不利な條件に充たされてゐる樣に思はれます。

卽ち

(1) 家屋が概して古きこと。
(2) 家屋が極めて密稠してゐること。
(3) 道幅の著しく狹きこと。
(4) 風速が甚だしく强きこと。
(5) 水利の便が極めて惡しきこと。

等が其の主要なるものであります。就中水利の便の惡しきことは火災消防に際し絶對的必要條件を缺くものであつて、何ものにも代へられぬ重大なる缺陷と言はねばならぬ。卽ち如何に訓練の積んだ消防組を以てしても、亦如何に優秀なるポンプを以てしても水利の便を得ずしてよく消火の目的を達することが出來ませうか、最近起つた數回の大火の經驗に徵しても水利の便の甚だしく惡しかつたことが切實に感ぜられたところであります。

水道敷設の必要は火災消防に處せんとするところに亦重大なる使命を以てゐるので、路上數十間置きに消火栓を設け如何なる場所にも容易に强烈なる威力を以て放水することが出來、全市内隈なく消火用の水利の便を完備し全市民の生命財産の安全を期せんとするものであります。

五、土地利用上から見たる水道

(1) 埋立地利用と水道の必要　漁港修築の結果利根沿岸に出來た十數萬坪の埋立地は之を最も有效に利用することが肝要でありますが、其の利用に當り一々之に井戸を堀ることは非常に多額の費用を要するのみなら

ず同埋立地一帶は水質甚だ不良なる爲土地利用上大いに痛心しつゝあるところでありますが、之にはどうしても水道敷設に依つて解決するの外全然ないことゝ思ひます。之が出來た曉に於ては埋立地の利用價値も一層增加せられるゝと思ひます。

(2) 高臺地利用と水道の必要　市内に於ける地積は市の發展と共に甚だしく狹隘を告ぐるに至り從つて將來漸次高臺地々帶の利用が益々增大せらるゝことゝ思ひますが、如何せん高臺地は水利の便が乏しい爲に實際に於ては利用上困難なる事情がありますので、是非玆に水道の敷設を遂げ高臺地方面の利用開發に資する必要があることと思ひます。

(3) 宅地利用と水道の必要　銚子市内に於ける住家宅地は他地方の夫に比すれば面積甚だしく狹隘であることは爭はれぬ事實であります。然かも此の狹隘なる宅地内に何れも堀井戸を設けると謂ふことは益々以て宅地の利用面積を縮少し甚だ不便を感ずる次第であります。此の實情から見て水道の敷設を爲したならば甚だ利便且裨益するところが多からうと思ひます。

六、家庭經濟上から見たる水道

水道の利益ある點は衞生上、産業上、火防上等幾多擧ぐべきものがありますが更に之を各戸の經濟上の方面から見まするに

1　各戸で井戸を堀るには少くとも數十圓多きは數百圓を要してゐますが、水道を導く場合は左樣な多額の出費を要さないから頗る經濟的であります。

2　井戸にポンプを取り附けて動力を使用せらるゝ向に於ては動力費を相當に要しますが之に比しますと水道の方が經濟的であります。

3　井戸は時々修繕を要し又ポンプも同樣修理を要する爲に相當維持修繕費を要しますが水道には左樣な出費がなく餘程經濟になります。

4　井戸水を汲むには人手が可成りかゝりますが水道は家の内で而かも簡單に自然に水が豐富に出せますので非常に樂になり家に依つては半人位の人手間が省けることになりませう。

5　堀井戸には多量の鹽分や其の他の含有物がある爲に石鹼の效目が惡しく洗濯物が奇麗にならないのみならず、中には反つて妙な色など着いて始末に困るやうな場合もありますが、水道の水を使へば決して左樣なことはなく洗濯物は頗る奇麗になります。

七、道路鋪裝上から見たる水道

産業の進展と日常生活の向上は誰人も皆等しく希望するところであります。此の見地から市内の道路の改修就中路面を鋪裝することは實に急務とするところでありまして今日既に一部でありますが鋪裝の出現を見續いて漸次全部に及ぼさんとしてゐるところでありますが、然るに之が鋪裝後に於ては水道敷設に當り鋪裝を破壞して地下工事を施行することゝなり甚だしく不經濟となる譯であります。故に當市の如きは速かに水道の敷設を爲すが得策であらうと思ひます。」

結　言

第二章　布設企畫

叙上述ぶるところに依り之を察するに吾が銚子市が團體として個人としても、亦公益的にも私益的にも眞に健全なる向上發達を期せんとするには實に水道の建設にあることが知り得ること、思はれます。今日既に各方面から之が實現方の要望のあることも寔に故なきにあらずであります。市は目下之が建設に關する各種の調査を急ぎつゝある次第であります。

一、漁港振興調査會よりの要望

水道敷設速進陳情

我ガ銚子市ノ興亡ハ水產漁業ノ盛衰如何ニ負フトコロ甚ダ多シ地元民夙ニ此ノ點ニ鑑ミル所アリ銚子漁港修築ノ議ヲ起シ政府及本縣ハ之ニ相應ジ現ニ巨費ヲ投ジ之ガ修築工事ニ最善ノ努力ヲ拂ハレツヽアル所ナリ現ニ今日數百艘ノ漁船常ニ入港シ將來頓ニ船舶數ノ激增ヲ見ントスルノ傾向ニアリ然ルニ現ニ船舶及魚市場ニ對スル給水施設完備シ居ラザル爲之等業者ハ常ニ著シク不便ヲ感ジツヽアル所ニシテ斯クテハ漁港經營上甚ダ寒心ニ堪エザル所ナリ他面他地方ノ漁港ハ孰レモ之等給水ニ關シテハ殆ンド市町村營ノ上水道ノ完備セザルモノナク船舶誘引ニ付各漁港ガ激烈ナル競爭場裡ニ置カル、ノトキ當港ノミ極メテ不利ノ狀態ニ放置セラレアルハ誠ニ遺憾ニ堪エザル次第ナリ殊ニ漁業者ヲシテ此ノ苦惱ヨリ一日モ速ニ脫却セシメ業務ニ精進セシムルコトハ刻下ノ急務トスル所ナリトス仍テ市ハ此ノ際速ニ上水道施設ヲ遂ゲ漁港ノ機能ヲ充分ニ發揮セシムル樣致サレンコトヲ本會滿場一致ノ議決ニ依リ右事情ヲ具シ及陳情候也

昭和九年十月十五日

銚子漁港振興調査會長　川村芳次

銚子市長　川村芳次殿

二、醫師會よりの要望

建議

市ハ市民衞生改善ノ爲メ上水道ノ建設下水道ノ改善ヲ急速ニ進捗セラレンコトヲ望ム

理由

今日吾人ノ寒心ニ絶ヘザルハ市民ノ衞生狀態ニシテ特ニ飮料水ノ不良ニ因リ來ル諸種傳染病ノ根限ノ絶滅ハ刻下ノ急務ナリ當市內井水ニ付行ハレタル水質檢査ノ結果合格ニ價スベキモノ極メテ僅少ナルヲ聞クニ及ビ本問題ヲ忽ニスベキモノニアラザルナリ

依ツテ本會ハ市當局ニ速進實行ヲ要望スルモノナリ

昭和十年三月十日

銚子市
海上郡醫師會長　竹內延章

銚子市長　川村芳次殿

三、消防組よりの要望

昭和十年四月五日

銚子市消防組頭代理副組頭　渡邊政治

銚子市長　川村芳次殿

銚子市水利地圖完備竝上水道敷設ニ付決議上申

本市消防組ハ昭和八年二月市制施行以來市當局ノ熱意アル改善ニ依リ内容ヲ更新シ市制施行前ニ比シ全ク面目ヲ一新スルニ至リタルハ當市火災防備上慶賀ニ堪ヘザル次第ニ有之候然シ乍ラ之ヲ當市ノ實情ニ徴スルニ人家稠密且ツ道路狹隘ナルト水利ノ不利不便ナルハ市民ノ齊シク認ムル事實ニシテ舊臘十九日市内本町港町及仲町ニ於ケル大火災ノ如キ其ノ慘禍慘狀ノ如何ノ大ナリシカヲ目擊スルニ及ビ一段ト痛感セラル、處ニシテ此ノ際水利地圖ヲ急速ニ完備シ更ニ市ハ當市ノ火災防備上將又衞生上永久的ノ策ヲ講ズル爲速ニ上水道敷設ヲ促進シ遺憾ナキヲ期セラレ度本市消防部長會ニ於テ左記事項ヲ滿場一致決定致候ニ付テハ何分ノ御高配相成度候也

記

一、銚子市水利地圖ヲ急速ニ完備セラレンコトヲ切望ス

一、上水道敷設ヲ促進セラレンコトヲ切望ス

昭和十年四月五日部長會決議

四、漁業組合よりの要望

上水道實現方ノ義ニ付陳情

吾等漁業ニ從事スル者ノ期待ハ漸ク遂ゲラレ銚子漁港ノ修築著シク進捗ヲ見ルニ至リタルモ之ニ配スベキ最モ緊要ナル給水施設ナク爲ニ吾等業者ハ孰レモ等シク今日言フベカラザル不便且損失ヲ招キツヽアル實情ニ候斯ク狀態ニ永ク置カルヽコトハ吾等漁業ニ從事スル者ノ將來ニ取リ一大暗影ニシテ誠ニ憂慮ニ堪エザル次第ニ御座候就テハ市ハ一日モ速ニ上水道施設ノ實現ヲ期セラレ當業者ノ苦難ヲ救ハルヽト共ニ地方産業ノ振興ニ資セラレンコトヲ玆ニ漁業者一同ヲ代表シ陳情候也

昭和十年五月十三日

本銚子漁業組合長　尾野重太郎
銚子漁業組合長　泉佐七
西銚子漁業組合長　高安乘松

銚子市長　川村芳次殿

第二節　準備調査

上水道布設は市民の翹望せし所にして、保健、衞生、火防上、緊切の事業たるは勿論産業の促進發展上一日も忽諸に附すべからざるものあるを認め川村市長は之が布設計畫を千葉縣水道事務所技師長河野愛香氏に依囑し以來數回に亙り實地調査の上其の成案を得たるに依り昭和十年五月二十七日市會協議會を開き之が計畫設計に關し詳細なる説明をなし全員異議なく贊成せり

設計の大要

第二章　布設企畫

給水區域　銚子市一圓とす

水源地　銚子市長塚町地内に鑿井四ヶ所を設け動力を以て地下水を揚水す

給水設備　過去に於ける人口增加率に基づきて將來の人口增加を想定して計畫給水人口六萬人を基準として差當り五萬人に對する給水設備を計畫し給水量は一人一日平均一〇〇立一人一日最大給水量一五〇立とせり

工事期限　三ヶ年繼續事業

總工費　金九十萬圓

內譯

工事費	七七八、〇〇〇圓
事務費	八〇、〇〇〇圓
豫備費	四二、〇〇〇圓
計	九〇〇、〇〇〇圓

玆に於て市會は昭和十年度に於て上水道調査費として金五百圓を議決し昭和十年六月六日銚子市水道調査臨時委員規程を設定して委員を三十名とし市會議員全員之に當れり次で委員を五班に分ち左記先進都市に於ける水道事業の視察をなし調査研究の資料とせり

第一班　郡山、福島、秋田、弘前

第二班　八王子、甲府、松本、高崎、上田、熊谷

第三班　西ノ宮、別府、宮崎、鹿兒島、熊本、長崎、佐賀

第四班　熱海、靜岡、岡崎、岐阜、四日市、宇治山田

第五班　仙臺、小樽、函館

銚子市水道調査臨時委員規程

（昭和十年六月六日議決同日告示第三六號）

第一條　本市水道事業調査ノ爲臨時委員ヲ置ク

第二條　委員ハ三十名トシ市會議員ヲ以テ之ニ充ツ

附則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

更に一方市は水道布設計畫上最も有力なる參考資料として市內に於ける水道使用希望者の調査に着手し各戶に左記印刷物を配布して使用希望者を取纏めたるに專用栓二、〇八八戶浴場業三八戶共の他各官衙、會社、銀行等豫期以上の使用申込者を得たるを以て水道經營上確信ある基礎調査を了したり

水道使用希望申込參考

銚子市ノ現況ニ鑑ミ市ハ清淨ニシテ豐富ナル上水ヲ市民ニ供給シ保健衞生、火災豫防、產業振興ニ資シ市民全

般ノ眞ノ幸福ト市永久ノ發展ニ供ヘント爲シ目下市營水道ノ計畫ヲ進メテ居リマス。之ガ使用希望ニ對シ左ノ通リ參考ニ供シマス。

一、此ノ際申込ミニ對スル特典

各戸ヘノ水道引込料ハ專用栓一栓（約二十五圓）ニ限リ徴收致シマセン

二、給水使用料

使用料ハ左ノ通リ

專用栓一戸一ケ月		五十五石迄	金一圓三十錢
同	同	八十二石五斗迄	金一圓九十錢
同	同	百十石迄	金二圓五十錢
同	同	百十五石以上二百七十石迄	五石五斗毎ニ金十二錢增
同	同	二百七十石以上千百石迄	五石五斗毎ニ金十錢增
同	同	千百石以上二千七百五十石迄	五石五斗毎ニ金八錢增
同	同	二千七百五十石ヲ超ユルモノ	五石五斗毎ニ金七錢增
共用栓一戸一ケ月		二十七石五斗迄	金五十錢

（共用栓ハ五戸ヲ以テ一栓トス）

斯くして調査研究全く成り空前の巨費を要すべき本市上水道布設事業も之に對する財政上の計畫宜しきを得る時は敢て其の負擔に堪へ難きこと無きを認め周到なる調査を行ひ當初の設計に依る總工費九十萬圓を變更して六十五萬圓とし愈々堅實なる本計畫の實施を樹立するに至れり

銚子市役所

第三章　工事計畫

第一節　設計調査

昭和十年水道調査費の計上に伴ひ本縣水道技師長河野愛香氏に依囑して各方面の實地踏査を行ひ周到綿密なる調査の結果左記銚子市營水道計畫概要成り愈々實施計畫として公表せらるるに至れり

銚子市營水道計畫概要

一、本水道ハ銚子市長塚町地内ニ鑿井ヲ穿チ喞筒ニテ揚水シ曝氣ノ後急速濾過池ヲ經テ淨水トナシ之ヲ鹽素ニテ滅菌ノ上附近丘陵上ノ配水池ニ揚送シ之ヨリ自然流下ニヨリ給水區域内ニ配水スルモノナリ

二、給水區域及給水人口

給水區域　銚子市内

銚子市ノ人口ハ大正十四年十月一日國勢調査ニ依レバ三萬八千二百九十一人昭和五年十月一日國勢調査ニ依レバ四萬二千六百九十八人ニシテ此間ノ增加率ハ千分ノ二二・四ナリ爾後ノ增加率ヲ千分ノ二二トシテ將來ノ人口ヲ推定シ尙給水普及率ヲ適當ニ假定シテ給水人口ヲ算定スレバ次ノ如シ

年次	總人口	給水普及率	給水人口	摘要
大正十四年國勢調査	三八、二九一			人口ハ毎年十月一日現在ヲ指ス
昭和五年國勢調査	四二、六九八			
昭和六年	四三、六三七			
七年	四四、五九七			
八年	四五、五七八			
九年	四六、五八一			
十年	四七、六〇六			
十一年	四八、六五三			
十二年	四九、七二三	〇・二〇	九、九四五	
十三年	五〇、八一七	〇・三〇	一五、二四五	
十四年	五一、九三五	〇・三三	一七、一三九	
十五年	五三、〇七八	〇・三六	一九、一〇八	
十六年	五四、二四六	〇・三八	二〇、六一三	
十七年	五五、四三九	〇・四〇	二二、一七六	

年次	總人口	給水普及率	給水人口	摘要
十八年	五六、六五九	〇・四二	二三、七九七	
十九年	五七、八八一	〇・四四	二五、四七八	
二十年	五九、一七九	〇・四六	二七、三三三	
二十一年	六〇、四八一	〇・四八	二九、〇三一	
二十二年	六一、八一二	〇・五〇	三〇、九〇六	
二十三年	六三、一七二	〇・五二	三二、八四九	
二十四年	六四、五六二	〇・五四	三四、八六三	
二十五年	六五、九八二	〇・五六	三六、九五〇	
二十六年	六七、四三五	〇・五八	三九、一一二	
二十七年	六八、九一九	〇・六〇	四一、三五一	
二十八年	七〇、四三五	〇・六二	四三、六七〇	
二十九年	七一、九八五	〇・六四	四六、〇七〇	
三十年	七三、五六九	〇・六六	四八、五五六	
三十一年	七五、一八八	〇・六八	五一、一二八	
三十二年	七六、八四二	〇・七〇	五三、七八九	
三十三年	七八、五三三	〇・七〇	五四、九七三	
三十四年	八〇、二六一	〇・七〇	五六、一八三	

年次	總人口	給水普及率	給水人口	摘要
十九年	五七、九〇五	〇・四四	二五、四七八	
二十年	五九、一七九	〇・四六	二七、三三三	
二十一年	六〇、四八一	〇・四八	二九、〇三一	
二十二年	六一、八一二	〇・五〇	三〇、九〇六	
二十三年	六三、一七二	〇・五二	三二、八四九	
二十四年	六四、五六二	〇・五四	三四、八六三	
二十五年	六五、九八二	〇・五六	三六、九五〇	
二十六年	六七、四三五	〇・五八	三九、一一二	
二十七年	六八、九一九	〇・六〇	四一、三五一	
二十八年	七〇、四三五	〇・六二	四三、六七〇	
二十九年	七一、九八五	〇・六四	四六、〇七〇	
三十年	七三、五六九	〇・六六	四八、五五六	
三十一年	七五、一八八	〇・六八	五一、一二八	
三十二年	七六、八四二	〇・七〇	五三、七八九	
三十三年	七八、五三三	〇・七〇	五四、九七三	
三十四年	八〇、二六一	〇・七〇	五六、一八三	

本計畫ニ於テハ基本計畫給水人口ヲ五萬人トシ擴張容易ナル施設ハ給水人口三萬人ニ對スルモノトセリ

三、給水量

一人一日ノ平均給水量ヲ百立トシ一日ノ最大給水量ヲ其ノ一倍半即チ百五十立一人一時的ニハ二百立ニ相當スル水量ヲ配給スルモノトセリ

各種ノ設備ハ一日ノ最大給水量ニ適應シ配水本管ハ時間的最大給水量ニ適應セシム而シテ將來擴張容易ナル鑿井喞筒濾過池及配水池ノ設備ハ給水人口三萬人ニ對スルモノトシ其他ハ五萬人ニ對スルモノトセリ

四、水源及水質

本市ハ前ニ洋々タル利根川ヲ擁シ後ニ丘陵地ヲ控ヘ其ノ他ニ附近ニハ特ニ河川ト稱スベキモノナシ今水道水源トシテ考査スルニ利根川ハ四時萬斛ノ流ヲ斷スルト雖其ノ匂配極メテ緩ナルヲ以テ海水ノ遡上ハ約十里ノ上流ナル佐原附近ニ及ビ水道水源トシテノ可能性ナク其ノ他ノ地表水ニシテ水道水源トスルニ足ルモノナシ而シテ地下水ノ狀態ヲ見ルニ市內ニ於テ鑿井ヲ以テ取水セルモノ鐵道機關庫醬油醸造工場等數個所アリ其ノ中水源豫定地ニ最モ近キ銚子醬油株式會社第五工場ニ於テ昭和五年十二月竣工シタル鑿井ニ就テ述ブレバ鑿井口徑十吋深度約六十七米自然水位地表下二米四二揚水水位（揚水量一日六百三十立方米）地表下二十米三ニシテ其水質試驗表ハ左ノ如シ

水質試驗表

千葉縣衞生試驗所

種目	試驗	井戸構造	井戸	成績										取水所在地
番號	月日	種類	深サ	色及清濁	臭味	反應	アンモニア	亞硝酸	硝酸	有機質	クロール	硬度		
九八三號	九、三〇	鑿井口徑十吋	六七米	無色透明	ナシ	アルカリ性	少	ナシ	ナシ	一八九六	六〇、三二〇			銚子市八幡町

右ニ就テ見ルニ地下水ハ其水質良好ナリトハ稱シ難キモ之ニ曝氣濾過殺菌等ノ淨化作業ヲ加フルトキハ常水トシテ使用スルニ何等差支ナキヲ信ズルト共ニ本市ノ如キ他ニ水源ヲ求ムルコト難キ場合鑿井ニ依ルノ亦已ヲ得ザルモノト云ハザルベカラズ本計畫ニ於テハ徑三百粍深度百三十米內外ノ鑿井三個ヲ相互間ノ距離約二百五十米ヲ以テ穿掘シ一個ノ平均取水量一晝夜約千五百五十立方米ノ見込ナリ

五、鑿井及導水管

市內長塚町地內利根川ト丘陵地トノ間平坦ナル水田中ニ相互間隔約二百五十米ヲ以テ三個ノ鑿井ヲ穿チ給水人口三萬人ニ對スル一日最大給水量四千五百立方米（毎秒五二・六立）ヲ取水セントス

四千六百三十五立方米（毎秒五三・六立）ヲ取水セントス

鑿井ハ各徑三百粍深度約百三十米ノ見込ニシテ十馬力電動機ニ直結セル深井戸タービン喞筒ヲ設置シテ揚水ス喞筒ハ各總揚程二十四米揚水量毎秒十七立九トス鑿井ハ現設計ニ於テハ三個ヲ設クルモ將來更ニ增設スル見込ヲ以テ導水管ノ大サヲ定メタリ

導水管ハ高級鑄鐵管ニシテ內徑三百五十粍、二百五十粍及百五十粍ノ三種トス

各井ヨリ揚送セラレタル水ハ導水管ヲ經テ濾過槽上ノ曝氣裝置ニ達ス卽導水管ノ末端ハ分レテ四トナリ內徑二百粍ニシテ各濾過槽ノ中央上部ニ達シ之ヨリ細管ヲ分岐シテ細管ニ取付ケラレタル噴出孔ヨリ噴水セシメ十分曝氣作用ヲ受ケシム

六、急速濾過池及鹽素滅菌機

濾過槽ハ其數四個ニシテ濾過速度ヲ一日百二十米トシ三池ニテ給水人口三萬人ニ對スル一日最大給水量ニ比シ百分ノ五、六ノ餘裕ヲ有ス將來二池ヲ增設スル見込ナリ

濾過槽ハ開放重力式ニシテ一池ノ大サ長四米幅三米三ノ鐵筋混凝土構造矩形トシ二池宛相對シ其ノ間ニ幅五米長七米二ノ監視室ヲ設ケ階下ニ各種ノ管樋類ヲ設備シ階上ニ在リテ之等各種弁類ノ操作ヲ行フモノトス濾過速度竝ニ流出量ヲ自動的ニ調節セシム

濾過層ハ砂層厚サ〇・七五米ノ下ニ厚〇・三米ノ砂利層ヲ配置シタルモノニシテ其洗滌ニハ送水管ヨリ內徑二百粍鐵管ヲ分岐シ減壓弁ヲ設置シ壓力水ヲ使用ス

濾過池上家內ニ鹽素滅菌機ヲ設置シ必要ニ應ジテ濾過水ガ吸水井ニ流下スル個所ニ於テ鹽素ヲ注加スルモノトス

七、喞筒室及送水管

濾過池ヨリ出テタル淨水ハ喞筒室床下ノ吸水井（容量百六十立方米給水人口五萬人ニ對スル一日最大給水量ノ三十分間分）ニ來リ之ヨリ喞筒ニ依リ內徑三百五十粍延約百七十七米ノ送水管ヲ經テ配水池ニ送ラル喞筒室ハ急速濾過池上家ニ接シテ建設セラレ鐵筋混凝土構造平家建ニシテ內部ニ三十馬力電動機直結タービン喞筒三臺ヲ設置ス喞筒ハ各口徑百五十粍總揚程五十一米五容量每秒二十六立八ニシテ一臺ヲ豫備トシ二臺ニテ給水人口三萬人ニ對スル一日最大給水量ヲ揚水ス一部ニ事務室ヲ置キ淨水場ニ於ケル事務ノ統制ヲ計ルニ便ニセリ

八、配水池

內徑十五米ノ圓形ニシテ有效水深八米有效容量一千四百立方米ニシテ給水人口三萬人ニ對スル一日最大給水量ノ約七時間半分ニ相當ス滿水位標高五十六米九トス

現地盤ハ標高四十九米七前後ノ畑地ニシテ地質砂混リ赤褐色粘土層ニシテ良好ナリ基礎ハ鐵筋混凝土杭打及栗石工トシ本體ハ鐵筋混凝土構造ニシテ上部ハ桁版ヲ以テ覆フ覆蓋上ニ厚〇・一米ノ砂利ヲ置キテ排水ニ便ニシ更ニ厚〇・三米ノ土砂ヲ以テ覆ヲ池ノ內面及覆蓋上部ニ防水モルタルヲ施ス

覆蓋ノ中央ニハ上家ヲ設ケ監視ニ便ナラシム尙池內ニハ溢流管排泥管等ヲ設ケ水位標示器ヲ設置シ喞筒室ニ之ヲ電送ス

送水管ト配水本管トヲ連絡スル副管ヲ設ケ配水池ヲ經ルコトナク直接配水スルヲ得シム

九、配水管

配水幹線ハ配水池ヲ出デ南東ニ進ミ本城町六丁目上野町ヲ經テ縣道千葉銚子線ニ出デ東進シテ春日町ヲ經テ清川町ニ至リ北東ニ進ミテ西芝二丁目ニ至リ末廣町一丁目ヲ北進シ右折シテ略東進シテ本通新生一丁目濱町

橋本町等ヲ經テ川口町一丁目ニ達ス其ノ大サハ内徑四百粍乃至二百五十粍ナリ西芝町二丁目ニ於テ内徑二百粍ヲ分岐シ略東進シテ芝町二丁目新生町三丁目陣屋町東町等ヲ經テ橋本町ト清水町トノ境界附近ニ於テ前記幹線ニ連絡ス西部方面ノ準幹線トシテ西芝町二丁目ニテ内徑二百五十粍管ヲ分岐シ縣道線ヲ略西進シテ若宮町二丁三軒町唐子町松本町本城町一、二、三丁目等ヲ經テ長塚町ニ達ス配水幹線ノ起點ニ近ク量水器ヲ設置シ配水量ヲ計量ス

配水幹線ニ於ケル最大靜水頭ハ約五十五米三最初有效水頭ハ約九米ナリ

市街地ノ道路ニハ配水管網ヲ張リ必要ナル箇所ニハ制水弁、排氣弁及排泥弁ヲ設置シ尚消火栓二百四十五個公設共用栓百個ヲ設クルモノトス配水管ハ口徑三百粍以上ハ高級鑄鐵管二百五十粍以下ハ「エタニツトパイプ」トス

一〇、工事期限及通水時期

起　工　昭和十一年度

竣　工　昭和十三年度

工事期間　三ヶ年

通　水　一部通水　昭和十二年度中ノ見込

全部通水　同　十三年度ヨリノ見込

水道布設工事費及繼續年期支出割

金六五〇、〇〇〇圓　總　額

昭和十一年度　一七〇、〇〇〇圓

昭和十二年度　二五〇、〇〇〇圓

昭和十三年度　二三〇、〇〇〇圓

一一、一金六拾五萬圓　水道布設費

内

金五拾七萬五千圓　工事費

金六萬五千圓　事務費

金壹萬圓　豫備費

一二、一金五拾七萬五千圓　工事費

内譯

金參萬參千九百圓　水源地費

金五萬八千四百圓　淨水場費

金參萬圓　給水場費

金參拾八萬六千貳百圓　配水管費

金壹萬參千七百圓　建築費

金參千五百圓　電話費
金參千八百圓　檢査費
金參千參百圓　運搬費
金參千九百圓　測量及製圖費
金壹萬八千五百圓　器具機械費
金壹萬五千參百圓　用地及補償費
金四千五百圓　雜工事費

一三、水道事業收支計算

水道事業ノ收支計算次ノ如シ

（一）收　入

（イ）國庫補助金及縣費補助金

（ロ）市　債

（ハ）水道使用料

給水人口平均一人一ケ年ノ收入三圓三十錢ト見込ム

給水人口ハ總人口ノ一割ヨリ逓加シ通水開始後十一年目ニ五割即チ總人口六萬餘人ニ對シ三萬人ニ給水スル見込ナリ

（ニ）雜　收　入

主トシテ十二年度十三年度ハ利率三分二ケ月半分ノ利子及水道使用料預金利子トシテ其ノ百分ノ一其ノ他ノ手數料雜收入ヲ包含ス

（ホ）給水工事收入

給水工事一件ニ付平均二十五圓ヲ需用者ヨリ納入スルモノト見込ム而シテ給水戸數ノ七割ヲ專用三割ヲ共用ト見做ス

專用ハ一戸一件共用ハ五戸ニ付一件即チ給水戸數ニ對シ七割六分ノ給水工事件數トナル

昭和十一年度ヨリ昭和二十二年度ニ至ル十二ケ年ニ六千百六十件ヲ施工スル見込ミ

尙給水工事費ハ普及奬勵ノタメ必要ノ期間中ハ工費負擔額ヲ減免シ其ノ他ハ相當低減ヲ計リ得ルモノトス

（イ）布設工事費　六五〇、〇〇〇圓

（ロ）市債償還

借入レタル資金ハ夫々五ケ年間据置キ二十年ニ償還スルモノトス卽チ最初ノ借入ヨリ二十五ケ年目ニ元利一切償還ヲ完了スルモノトス

利率ハ年四分五厘

但シ借入後九年以降ハ收支ニ於テ相當ノ剩餘金ヲ生ズルヲ以テ繰上ゲ償還スルコトヲ得ル見込ミ

（ハ）經　常　費

給水人口一人ニ付一ケ年一圓五十錢

（ニ）量水器費

總給水戸數ノ內　七割ハ專用
　　三割ハ共用

右　專用ノ內　二割ヲ計量ノモノトシ八割ヲ放任ト見做シ卽全給水戸數ノ一割四分ト見込ミ計上ス

一件ニ付平均十五圓ノ見込

（ホ）積立金

昭和二十一年度ヨリ漸次增加ノ見込ミ

詳細ハ別紙表參照（省略）

第二節　市會議決

各般の調査準備全く整ひたるを以て市長は昭和十一年八月十四日水道布設問題を決定すべく市會を招集し關係左記議案を提出せり、本市百年の大計を決すべき市會は極度の緊張裏に開會せられ水道布設の件議題に上るや川村市長は謹嚴なる態度を以て水道布設の必要より計畫の內容に就き詳細說明するところあり續いて各議員より質問及意見の陳述あり充分審議を盡くし遂に大多數を以て全部原案を可決確定せり

議案第一號

上水道布設工事施行ニ關スル件

市ハ昭和十一年度ヨリ昭和十三年度ニ至ル三箇年繼續事業トシテ上水道布設工事ノ施行ヲ爲スモノトス

昭和十一年八月十四日提出

銚子市長　川村芳次

議案第二號

自昭和十一年度
至昭和十三年度　銚子市上水道布設費繼續年期及支出方法

一金六拾五萬圓　上水道布設費

內譯

金拾七萬圓　昭和十一年度支出額
金貳拾五萬圓　昭和十二年度支出額
金貳拾參萬圓　昭和十三年度支出額

右上水道布設費トシテ支出スルモノトス

昭和十一年八月十四日提出

銚子市長　川村芳次

銚子市繼續費上水道布設費收支計算表

第三章　工事計畫

收入

科目 款	科目 項	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	計	說明 種目	說明 金額	說明 附記
一、市債		一七〇、〇〇〇円	二五〇、〇〇〇円	二三〇、〇〇〇円	六五〇、〇〇〇円			
	一、市債	一七〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二三〇、〇〇〇	六五〇、〇〇〇			
						一、市債	六五〇、〇〇〇	
合計		一七〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二三〇、〇〇〇	六五〇、〇〇〇			

支出

科目 款	科目 項	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	計	說明 種目	說明 金額	說明 附記
一、市上水道設費		一七〇、〇〇〇円	二五〇、〇〇〇円	二三〇、〇〇〇円	六五〇、〇〇〇円			
	一、工事費	一五四、一〇〇	二二〇、三〇〇	二〇〇、六〇〇	五七五、〇〇〇			
						一、水源地費	三三、九〇〇	
						二、淨水場費	五八、四〇〇	
						三、給水場費	三〇、〇〇〇	
						四、配水管費	三六六、二〇〇	
						五、建築費	一三、七〇〇	
						六、電話費	三、五〇〇	
						七、檢査費	三、八〇〇	
						八、運搬費	三、三〇〇	
						九、測量及製圖費	三、九〇〇	
						十、器具機械費	一八、五〇〇	
						十一、用地及補償費	一五、三〇〇	
						十二、雜工事費	四、五〇〇	
	二、事務費	一三、二八二	二五、八五九	二五、八五九	六五、〇〇〇			
						一、俸給	三三、六五〇	
						二、雜給	二四、三一七	
						三、需用費	七、〇〇〇	
	三、豫備費	二、六一八	三、八四一	三、五四一	一〇、〇〇〇			
						一、豫備費	一〇、〇〇〇	
合計		一七〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二三〇、〇〇〇	六五〇、〇〇〇			

議案第三號

自昭和十一年度
至昭和十三年度　銚子市上水道費（布設費ヲ除ク）繼續年期及支出方法

一金七萬八千參百貳拾五圓也　上水道費（布設費ヲ除ク）

內譯

金參千八百貳拾五圓也　昭和十一年度支出額

金貳萬六千參百五拾八圓也　昭和十二年度支出額

金四萬八千百四拾貳圓也　昭和十三年度支出額

右上水道經營費トシテ支出スルモノトス

昭和十一年八月十四日提出

銚子市長　川村芳次

銚子市繼續費上水道經營費收支計算表

收入

科目 款	科目 項	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	計	說明 種目	說明 金額	說明 附記
一、補助金		一、七〇〇	四、七〇〇	七、〇〇〇	一三、四〇〇			
	一、國庫補助金	—	五〇〇	五〇〇	一、〇〇〇			
						一、國庫補助金	一、〇〇〇	
	二、縣費補助金	一、七〇〇	四、二〇〇	六、五〇〇	一二、四〇〇			
						一、縣費補助金	一二、四〇〇	
二、使用料		—	一二、三〇七	三九、三七五	五一、六八二			
	一、水道使用料	—	一二、三〇七	三九、三七五	五一、六八二			
						一、水道使用料	五一、六八二	
三、繰入金		一、七〇〇	七、七八九	三三〇	九、八一九			
	一、繰入金	一、七〇〇	七、七八九	三三〇	九、八一九			
						一、一般市費繰入	九、八一九	
四、雜收入		四二五	一、五六二	一、四三七	三、四二四			
	一、雜收入	四二五	一、五六二	一、四三七	三、四二四			
						一、預金利子	三、四二四	
合計		三、八二五	二六、三五八	四八、一四二	七八、三二五			

支出

第三章　工事計畫

決算

歳入

歳入総額繰越水道費収支計算表

科目	予算額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額
水道使用料	千円	千円	千円	千円	千円
現年分					
滞納繰越分					
加入金					
現年分					
滞納繰越分					
手数料					
現年分					
滞納繰越分					
雑入					
現年分					
滞納繰越分					
合計					

決算

歳入

歳入総額繰越水道費収支計算表

科目	予算額	調定額	収入済額	不納欠損額	収入未済額
水道使用料	千円	千円	千円	千円	千円
現年分					
滞納繰越分					
加入金					
現年分					
滞納繰越分					
手数料					
現年分					
滞納繰越分					
雑入					
現年分					
滞納繰越分					
合計					

四、雜收入		四二五	一、五六二	一、四三七	一、市費繰入金 九、八一九
	一、雜收入	四二五	一、五六二	一、四三七	三、四二四
					一、預金利子 三、四二四
五、市債		一七〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	六五〇、〇〇〇
	一、市債	一七〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇	六五〇、〇〇〇
					一、市債 六五〇、〇〇〇
合計		一七三、八二五	二七六、三五八	二七八、一四二	七二八、三二五

支出

科目 款	科目 項	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度	計	說明 種目	說明 金額	說明 附記
一、上水道布設費		一七〇、〇〇〇円	二五〇、〇〇〇円	二五〇、〇〇〇円	六五〇、〇〇〇円		円	
	一、工事費	一五四、一〇〇	二二〇、三〇〇	二〇〇、六〇〇	五七五、〇〇〇	一、水源地費	三三、九〇〇	
						二、淨水場費	五八、四〇〇	
	三、給水場費							
	四、配水管費							
	五、建築費							
	六、電話費							
	七、檢査費							
	八、運搬費							
	九、測量及製圖費							
	十、器具機械費							
	十一、用地補償費							
	十二、雜工事費							
	二、事務費	一三、二八二	二五、八五九	二五、八五九	六五、〇〇〇			
	三、豫備費	二、六一八	三、八四一	三、五四一	一〇、〇〇〇			
						一、俸給	三三、六五〇	
						二、雜給	二四、三一七	
						三、需用費	七、〇三三	
						一、豫備費	一〇、〇〇〇	

| | | |

| 歳入合計 | | | | 一七三、八二五 | 一七三、八二五 | | | |

| | | |

昭和十一年八月十四日提出

銚子市長　川村芳次

金六拾五萬圓各年度元利金償還年次表

年度	年利四分 償還元金	年利四分 利子	年利四分 計	年利四分五厘 償還元金	年利四分五厘 利子	年利四分五厘 計
昭和十一年度	—	四、五三三三	四、五三三三	—	三、八二五00	三、八二五00
昭和十二年度	—	一六、八00 00	一六、八00 00	—	一八、九00 00	一八、九00 00
昭和十三年度	—	二六、000 00	二六、000 00	—	二九、二五0 00	二九、二五0 00
昭和十四年度	—	二六、000 00	二六、000 00	—	三九、二五0 00	三九、二五0 00
昭和十五年度	—	二六、000 00	二六、000 00	—	二九、二五0 00	二九、二五0 00
昭和十六年度	五、六八五 二五	二五、九四三 七一	三一、六二八 四六	五、三九0 二七	二九、一九0 0三	三四、九八0 三0
昭和十七年度	一四、二七五 五九	二五、六三一 二五	三九、九0六 八四	一三、五六二 一三	二八、八五六 五五	四二 四一八 九八
昭和十八年度	二二、五四四 一二	二四、九七八 三六	四七、五二二 四八	二一、四七二 三三	二八、一五八 二六	四九、六三0 五八
昭和十九年度	二三、四五四 九0	二四、0六七 五八	四七、五二二 四八	二二、四四九 四六	二七、一八一 一二	四九、六三0 五八
昭和二十年度	二四、四0二 四八	二三、一二0 00	四七、五二二 四八	二三、四七一 0三	二六、一五九 五五	四九、六三0 五八
昭和二十一年度	二五、三八八 三四	二二、一三四 一四	四七、五二二 四八	二四、五三九 一二	二五、0九一 四六	四九、六三0 五八
昭和二十二年度	二六、四一四 0	二一、一0八 四五	四七、五二二 四八	二五、六五五 八0	二三、九七四 七八	四九、六三0 五八
昭和二十三年度	二七、四八一 一七	二0、0四一 三一	四七、五二二 四八	二六、八二三 三一	二二、八0七 二七	四九、六三0 五八
昭和二十四年度	二八、五九一 四0	一八、九三一 0八	四七、五二二 四八	二八、0四三 九三	二一、五八六 六五	四九、六三0 五八
昭和二十五年度	二九、七四六 五0	一七、七七五 九八	四七、五二二 四八	二九、三二0 10	二0、三一0 四八	四九、六三0 五八
昭和二十六年度	三0、九四八 二六	一六、五七四 二三	四七、五二二 四八	三0、六五四 三六	一八、九七六 二二	四九、六三0 五八
昭和二十七年度	三二、一九八 五五	一五、二二三 九三	四七、五二二 四八	三二、0四九 三三	一七、五八一 二五	四九、六三0 五八
昭和二十八年度	三三、四九九 三七	一四、0二三 一一	四七、五二二 四八	三三、五0七 七六	一六、一二二 八二	四九、六三0 五八
昭和二十九年度	三四、八五二 七六	一二、六六九 七二	四七、五二二 四八	三五、0三二 五七	一四、五九一 01	四九、六三0 五八
昭和三十年度	三六、二六0 八一	一一、二六一 六七	四七、五二二 四八	三六、六二六 七七	一三、00三 八一	四九、六三0 五八
昭和三十一年度	三七、七二五 七三	九、七九六 七五	四七、五二二 四八	三八、二九三 五二	一一、三三七 0六	四九、六三0 五八
昭和三十二年度	三九、二四九 八七	八、二七二 六一	四七、五二二 四八	四0、0三六 一三	九、五九四 四五	四九、六 0 五八
昭和三十三年度	四0、八三五 五六	六、六八六 九二	四七、五二二 四八	四一、八五八 01	七、七七二 五七	四九、六三0 五八
昭和三十四年度	四二、四八五 三一	五、0三七 一七	四七、五二二 四八	四三、七六二 八0	五、八六七 七八	四九、六三0 五八
昭和三十五年度	四四、二01 五八	三、三二0 七六	四七、五二二 三四	四五、七五四 六一	三、八七六 二八	四九、六三0 八九
昭和三十六年度	三三、四三四 0二	一、六五九 三一	三五、0九三 三三	三四、七一0 三七	一、九四0 二0	三六、六五0 五七
昭和三十七年度	一六、三二四 四一	四九一 三五	一六、八一五 七六	一六、九八六 00	五七五 四一	一七、五六一 四一
計	六五0、000 00	四二八、一八二 七二	一、0七八、一八二 七二	六五0、000 00	四八五、0三七 01	一、一三五、0三七 01

議案第六號

昭和十一年度銚子市歳入歳出追加豫算

歳入

一金五拾七萬九拾八圓　歳入既定豫算高

一金壹千七百貳拾六圓　歳入追加豫算高

歳入合計金五拾七萬壹千八百貳拾四圓

歳出

一金貳拾八萬九千參百四拾七圓　經常部既定豫算高

一金貳拾八萬七百五拾壹圓　臨時部既定豫算高

一金壹千七百貳拾六圓　臨時部追加豫算高

臨時部計金貳拾八萬貳千四百七拾七圓

歳出合計金五拾七萬壹千八百貳拾四圓

歳入歳出差引殘金ナシ

昭和十一年度銚子市歳入歳出追加豫算

歳入

豫算				豫算說明	
科目 款	科目 項	追加豫算額	種目	既定豫算額	計	附記
十三、市税		二六円	三、營業收益税附加税	二六	二一、四九六	二一、五二二
			一、營業收益税附加税	二一、四九六	二一、五二二	營業收益税參拾五圓壹圓二付金七十六錢
十四、繰入金		一、七〇〇		一、七〇〇	一、七〇〇	
	一、基本財産繰入	一、七〇〇		一、七〇〇	一、七〇〇	
			一、基本財産繰入	一、七〇〇	一、七〇〇	
歳入合計		一、七二六		五七〇、〇九八	五七一、八二四	

歳出臨時部

豫算				豫算說明	
科目 款	科目 項	追加豫算額	種目	既定豫算額	計	附記
七、基本財産運用戻入金		二六円	追加豫算額	六、九六〇円	六、九八六円	

			一、戻入金	二六				二六	六、九八六
		十三、雜支出							
			一、七〇〇					一、七〇〇	六、九八六
			二、繰入金	一、七〇〇				一、七〇〇	二、八〇〇
					特別會計上水道費繰入金	一、七〇〇		一、七〇〇	四、五〇〇
		臨時部計	一、七二六						
		歲出合計	一、七二六			一、七〇〇		一、七〇〇	六、九八六
一、七二六	五七〇、〇九八								
一、七二六	五七一、八二四								

昭和十一年八月十四日提出

銚子市長　川村芳次

議案第七號

市債ヲ起シ竝起債ノ方法利息ノ定率及償還方法ノ件

本市上水道布設費支辨ノ爲市債ヲ起シ之ガ起債ノ方法利息ノ定率及償還ノ方法ヲ左ノ通定ムルモノトス

昭和十一年八月十四日提出

銚子市長　川村芳次

起債ノ方法利息ノ定率及償還方法

一、起債ノ金額　金六拾五萬圓

一、起債ノ目的　自昭和十一年度至昭和十三年度繼續事業上水道布設費ノ支辨ニ充ツル爲

一、利息ノ定率　年利四分五厘以内

一、借入先　大藏省預金部逓信省簡易保險局銀行又ハ會社其他

一、借入ノ方法　普通貸借又ハ債券發行

一、借入ノ時期　昭和十一年度　金十七萬圓

昭和十二年度　金二十五萬圓

昭和十三年度　金二十三萬圓

但シ借入期月ハ借入先ト協定スルモノトス

一、据置期間　昭和十一年度借入金十七萬圓ハ借入ノ日ヨリ昭和十六年三月三十一日迄

昭和十二年度借入金二十五萬圓ハ借入ノ日ヨリ昭和十七年三月三十一日迄

昭和十三年度借入金二十三萬圓ハ借入ノ日ヨリ昭和十八年三月三十一日迄

一、償還方法　昭和十一年度借入金十七萬圓ハ自昭和十六年度至昭和三十五年度二十ケ年賦トス

昭和十二年度借入金二十五萬圓ハ自昭和十七年度至昭和三十六年度二十ケ年賦トス

昭和十三年度借入金二十三萬圓ハ自昭和十八年度至昭和三十七年度二十ケ年賦トス

市財政ノ都合ニ依リ繰上ゲ償還ヲ爲シ又ハ償還年限ヲ短縮シ若ハ低利債ニ借替ヲ爲スコト

ヲ得

一、償還財源　水道使用料、補助金、及市一般歳入

議案第八號

基本財産運用竝ニ積戻方法ニ關スル件

本市ハ上水道布設費ニ充ツル爲左ノ通一般歳計ヘ基本財産ヲ繰入運用スルモノトス

昭和十一年八月十四日提出

銚子市長　川村芳次

基本財産運用竝ニ積戻方法

一、繰入金額　金壹千七百圓也

一、繰入資金　市基本財産

一、繰入ノ目的　上水道布設費ニ充ツル爲

一、利　率　年三分

一、繰入ノ時期　昭和十一年度但シ許可ヲ得タル月トス

一、据置期間　繰入ノ月ヨリ昭和二十三年三月三十一日迄トス

一、積戻方法　昭和二十三年度ニ於テ積戻スモノトス

一、積戻財源　市一般歳入

積戻年次表

年次	期月	未積戻額	積戻額	利子	計
昭和十一年度	三月	一、七〇〇、〇〇〇		二、五五〇	二、五五〇
昭和十二年度	三九月	一、七〇〇、〇〇〇		二、五五〇	二、五五〇
昭和十三年度	三九月	一、七〇〇、〇〇〇		二、五五〇	二、五五〇
昭和十四年度	三九月	一、七〇〇、〇〇〇		二、五五〇	二、五五〇
昭和十五年度	三九月	一、七〇〇、〇〇〇		二、五五〇	二、五五〇
昭和十六年度	三九月	一、七〇〇、〇〇〇		二、五五〇	二、五五〇
昭和十七年度	三九月	一、七〇〇、〇〇〇		二、五五〇	二、五五〇
昭和十八年度	三九月	一、七〇〇、〇〇〇		二、五五〇	二、五五〇
昭和十九年度	三九月	一、七〇〇、〇〇〇		二、五五〇	二、五五〇
昭和二十年度	三九月	一、七〇〇、〇〇〇		二、五五〇	二、五五〇

昭和二十一年度	九月三月	一、七〇〇	〇〇	—		二五五〇	二五五〇	二五五〇	二五五〇
昭和二十二年度	九月三月	一、七〇〇	〇〇	—		二五五〇	二五五〇	二五五〇	二五五〇
昭和二十三年度	九月三月	一、七〇〇	〇〇	八五〇	〇〇	一二五	七五〇	八六二	七五〇
計		—		一、七〇〇	〇〇	六二四	七五	二、三二四	七五

議案第九號

上水道布設費補助申請ノ件

本市上水道布設費ニ對シ國庫補助ヲ申請スルモノトス

昭和十一年八月十四日提出

銚子市長　川村芳一次

國庫補助金豫定表

年度	補助金	年度	補助金
昭和十二年度	五〇〇	昭和十四年度	五〇〇
昭和十三年度	五〇〇	昭和十五年度	五〇〇
昭和十六年度	五〇〇	昭和二十八年度	三、〇〇〇
昭和十七年度	五〇〇	昭和二十九年度	三、〇〇〇
昭和十八年度	一、〇〇〇	昭和三十年度	四、〇〇〇
昭和十九年度	一、〇〇〇	昭和三十一年度	四、〇〇〇
昭和二十年度	一、〇〇〇	昭和三十二年度	四、〇〇〇
昭和二十一年度	一、〇〇〇	昭和三十三年度	四、〇〇〇
昭和二十二年度	二、〇〇〇	昭和三十四年度	五、〇〇〇
昭和二十三年度	二、〇〇〇	昭和三十五年度	五、〇〇〇
昭和二十四年度	二、〇〇〇	昭和三十六年度	六、〇〇〇
昭和二十五年度	二、〇〇〇	昭和三十七年度	六、〇〇〇
昭和二十六年度	三、〇〇〇		
昭和二十七年度	三、〇〇〇	計	六五、〇〇〇

議案第十號

上水道布設費補助申請ノ件

本市上水道布設費ニ對シ縣費補助ヲ申請スルモノトス

昭和十一年八月十四日提出

縣費補助金豫定表

年度	補助金	年度	補助金
昭和十一年度	一、七〇〇	昭和十八年度	六、五〇〇
昭和十二年度	四、二〇〇	昭和十九年度	六、五〇〇
昭和十三年度	六、五〇〇	昭和二十年度	六、五〇〇
昭和十四年度	六、五〇〇	昭和二十一年度	四、八〇〇
昭和十五年度	六、五〇〇	昭和二十二年度	二、三〇〇
昭和十六年度	六、五〇〇		
昭和十七年度	六、五〇〇	計	六五、〇〇〇

水道布設費年度割表

種目	總額	昭和十一年度	昭和十二年度	昭和十三年度
水道布設費	六五〇、〇〇〇〇〇	一七〇、〇〇〇〇〇	二五〇、〇〇〇〇〇	二三〇、〇〇〇〇〇
工事費	五七五、〇〇〇〇〇	一五四、一〇〇〇〇	二二〇、三〇〇〇〇	二〇〇、六〇〇〇〇
水源地費	三三、九〇〇〇〇	一七、〇〇〇〇〇	一六、九〇〇〇〇	—
淨水場費	五八、四〇〇〇〇	二九、〇〇〇〇〇	二九、四〇〇〇〇	—
給水場費	三〇、〇〇〇〇〇	一〇、〇〇〇〇〇	一〇、〇〇〇〇〇	一〇、〇〇〇〇〇
配水管費	三八六、二〇〇〇〇	七三、四〇〇〇〇	一三七、七五〇〇〇	一七五、〇五〇〇〇
建築費	一三、七〇〇〇〇	六、二〇〇〇〇	三、三〇〇〇〇	四、二〇〇〇〇
電話費	三、五〇〇〇〇	三、〇〇〇〇〇	二五〇〇〇	二五〇〇〇
檢査費	三、八〇〇〇〇	八〇〇〇〇	一、五〇〇〇〇	一、五〇〇〇〇
運搬費	三、三〇〇〇〇	五〇〇〇〇	一、四〇〇〇〇	一、四〇〇〇〇
測量及製圖費	三、九〇〇〇〇	一、三〇〇〇〇	一、三〇〇〇〇	一、三〇〇〇〇
器具機械費	一八、五〇〇〇〇	五、〇〇〇〇〇	一〇、〇〇〇〇〇	三、五〇〇〇〇
用地及補償費	一五、三〇〇〇〇	六、四〇〇〇〇	七、〇〇〇〇〇	一、九〇〇〇〇
雜工事費	四、五〇〇〇〇	一、五〇〇〇〇	一、五〇〇〇〇	一、五〇〇〇〇
事務費	六五、〇〇〇〇〇	一三、二八二〇〇	二五、八五九〇〇	二五、八五九〇〇
俸給	三三、六五〇〇〇	六、七三〇〇〇	一三、四六〇〇〇	一三、四六〇〇〇
雜給	二四、三一七〇〇	四、八六五〇〇	九、七二六〇〇	九、七二六〇〇
需用費	七、〇三三〇〇	一、六八七〇〇	二、六七三〇〇	二、六七三〇〇
豫備費	一〇、〇〇〇〇〇	二、六一八〇〇	三、八四一〇〇	三、五四一〇〇

第三節　布設認可

本市空前の大事業たる水道布設の件は市會議員の熱誠と、市當局不斷の努力と六萬市民の後援とにより市會の協贊を經たるに依り昭和十一年八月三十一日左記認可申請書を共の筋に提出せり。

銚土第五三〇號

上水道布設認可申請書

本市々營ヲ以テ別紙目論見書ノ通上水道ヲ布設致度候ニ付御認可相成度關係書類添付此段及申請候也

昭和十一年八月三十一日

銚子市長　川村芳次

內務大臣　潮惠之輔殿

（添付書類省略）

銚子市上水道布設理由書

本市ハ千葉縣ノ東端東經百四十度五〇北緯三十五度四四ニ位シ北ハ利根川口ヲ扼シテ茨城縣波崎町ト相對シ南ニ九十九里濱北ニ鹿島灘ヲ擁シテ太平洋ニ臨ム昭和八年二月市制施行以來急激ナル發展ヲ見ルニ至リ現在戶數壹萬貳千七拾壹戶人口六萬五百貳拾四人ニ達シタリ

由來本市ハ利根川沿岸ニ發達セル漁港ニシテ人家ノ最モ稠密セル區域ハ利根川ニ沿ヘル一帶ノ地ナリ然ルニ利根川ハ滿潮時ニ於テ海水ノ逆流スルコト十餘里ニ及ビ沿岸ノ井水ハ悉ク鹽分ヲ含有シテ飲料ニ適セズ殊ニ昭和九年市內全般ニ亘リ一千餘戶ノ井戶ニ就キ千葉縣ニ於テ共ノ水質檢査ヲ施行シタル結果不良ニシテ飲料水ニ適セザルモノ實ニ八〇パーセントノ多キヲ算セリ之ガ爲ニ飲料ニ缺乏セル地域內ノ住民ハ或ハ遠方ノ井戶ニ淨水ヲ求メテ之ヲ運搬飲用スルモノ或ハ買水ヲ使用スルモノ等ソノ不利不便名狀スベカラザルモノアリ從ツテ水質不良ナル飲料水ヲ使用スルノ餘儀ナキ者多ク率イテコレガ衞生上ニ及ボス影響亦勘カラザル最近コレニ基因スル傳染病及胃腸病患者年々增加ノ傾向ヲ示シツヽアルハ憂慮ニ堪ヘザル所ナリ殊ニ近年觀光地帶トシテ觀光客ノ本市ニ來遊スルモノ激增セルモ飲料水ノ適否ハ之等觀光客誘致上ニ及ボス影響亦勘カラザルモノアリ以上ハ衞生上ノ見地ヨリ速ニ上水道布設ヲ要望スル所以ナリ

次ニ本市ハ太平洋ニ突出セル銚子半島ヲ占ムルガ故ニ四季風强ク風速二十米ヲ越ユルコト珍カラズ然ルニ古來室屋ノ構造概ネ平屋建木造ニシテ不燃質物ノ構造ハ殆ンド之ヲ見ルコト能ハズ加フルニ近年鰯ノ豐魚ニ伴ヒ共ノ製造加工業者增加シ簡易ナル工場簇生シテ到ル處ニ小煙突林立セル有樣ニシテ火災ノ危險益々多キヲ加フルニ至レリ然モ道路ハ不規則且ツ狹隘ニシテ防火設備亦完カラズ殊ニ利根川ニ近接セル地域ノ外自然ノ用水ヲ缺キ僅カニ小數ノ貯水池又ハ各戶ノ井戶ヲ以テ防火用水ニ充ツルノ外途ナシ故ニ一朝火災起ランカ水量ノ不足ハ忽チ戰慄スベキ慘禍ヲ惹起スルニ至ルコトハ明カナル事實ナリ玆ニ於テ市ハ市制施行以來消防組織ノ改善竝ニ設備ノ充實ニ對シ銳意努力スル所アリタリト雖モ要ハ速ニ上水道ヲ布設シテ消火栓ノ充實ヲ圖リ豐富ナル水壓ノ威力ニ依リ

テ消防ノ實ヲ擧グルニ非ラザレバ到底其ノ目的ヲ達成スルコト能ハザルナリ

更ニ本市ノ産業ニ就キテ之ヲ見ルニ古來本市ノ主要産業トセル醬油釀造業竝水産業ヲ始メトシテ各種産業施設ハ一トシテ清淨ニシテ豐富ナル水ヲ要求セザルモノナキニ拘ハラズ從來僅カニ鑿井若ハ普通ノ井水ニ依リ漸ク其ノ需用ヲ充セルニ過ギズ殊ニ六百萬圓ノ巨費ヲ投ジテ施行セル縣營漁港修築工事ノ如キハ近ク其ノ竣工ヲ告ゲントスト雖モ陸上ニ於ケル給水設備ニ至ツテハ殆ンド見ルベキモノナク常ニ港内ニ出入セル縣内及縣外數百ノ漁船ハ滿足ナル淨水ノ供給ヲ受クルコト能ハズ漸ク遠方ノ井水ヲ求メテ之ヲ運搬使用スル狀況ナリ其ノ不利不便ハ謂フマデモナク率イテハ漁港將來ノ發展上一大支障ヲ招來スルモノト謂フベシ是レ特ニ水産團體及水産關係業者ガ夙ニ水道布設ヲ要望シ且屢々陳情セシ所以ナリ

之ヲ要スルニ上水道布設ハ多年市民ノ翹望セシ所ニシテ保健衞生火防上緊切ノ事業タルハ勿論産業ノ促進發展上一日モ忽諸ニ附スベカラザルモノト認メ本市百年ノ大計ヲ樹立センガ爲メ其ノ布設ニ對シ市會ニ於テ協議贊決セシ所以ナリ

爾來川村市長は屢々上京して關係當局を歷訪し認可の速進に努めたる結果從來他の都市に於て其の例を見ざる短時日の間に極めて順調に進捗し昭和十二年三月二十五日水道布設の件左記の通認可指令に接したり

內務省一一千衞第一〇號

昭和十一年八月三十一日銚第五百三十號申請上水道布設ノ件認可ス

千葉縣銚子市

昭和十二年三月二十五日

衞第七五七九號

昭和十二年四月二日

銚子市長　川村　芳次殿

上水道布設認可ノ件

昭和十一年八月三十一日付銚第五三〇號ヲ以テ申請ニ係ル標記ノ件別紙ノ通指令有之候ニ付及送付候也

追テ左記事項嚴守相成度申添候

記

一、當初水源井ヲ鑿設シ水量及水質ノ嚴密ナル試驗ヲ行ヒ其ノ結果ヲ報告シ其ノ他ノ施設ニ就テハ右ノ結果ニ基キ適當ナル實施設計ヲ樹テ更メテ認可ヲ申請スルコト

內務大臣　河原田稼吉

千葉縣知事

第四節　起債許可

本市の財政上本水道布設事業費は悉く之を起債に俟たざるべからず依て布設認可申請書と同時に左記の通り起債許可申請書を提出せり

銚庶第六六四號

昭和十一年八月三十一日

銚子市長　川村芳次

内務大臣　潮　恵之輔　殿
大藏大臣　馬場　鍈一　殿

起債許可稟請

本市ニ於テ昭和十一年度ヨリ昭和十三年度ニ至ル三箇年繼續事業上水道布設費支辨ノ爲金六拾五萬圓起債ノ件市會ノ議決ヲ經候ニ付御許可相成度別紙關係書類相添ヘ此段稟請候也

添付書類目錄（添附書類は省略す）

一、理由書
二、起債議決書
三、自昭和十一年度至昭和十三年度銚子市上水道布設費繼續年期及支出方法
四、銚子市繼續費上水道布設費收支計算表
五、自昭和十一年度至昭和十三年度銚子市上水道費（布設費ヲ除ク）繼續年期及支出方法
六、銚子市繼續費上水道經營費收支計算表
七、銚子市繼續費上水道費收支計算表
八、起債ノ方法利息ノ定率及償還方法
九、金拾七萬圓償還年次表（年利四分五厘）
一〇、金貳拾五萬圓償還年次表（年利四分五厘）

一一、金貳拾參萬圓償還年次表（年利四分五厘）
一二、昭和十一年度銚子市特別會計上水道費歳入歳出豫算
一三、昭和十一年度銚子市歳入歳出追加豫算
一四、昭和十一年度銚子市歳入歳出豫算書
一五、昭和十一年度銚子市歳入歳出追加豫算
一六、昭和十一年度銚子市歳入歳出追加豫算
一七、昭和十一年度銚子市歳入歳出追加豫算
一八、昭和十一年度銚子市歳入歳出追加豫算
一九、昭和十一年度銚子市歳入歳出追加豫算
二〇、昭和十一年度銚子市歳入歳出追加豫算
二一、基本財産運用竝ニ積戻方法
二二、銚子市上水道財政計畫收支一覽表
二三、基本財産調
二四、諸稅負擔一覽表　昭和十年度
二五、納稅成績調　同
二六、基本財産運用戻入金

二七、償還財源調
二八、水道使用料算定
二九、基本財産運用金調
三〇、銚子市債調(一般會計)昭和十一年八月現在
三一、市債償還計畫調(其ノ一)
三二、同　(其ノ二)
三三、同　(其ノ三)
三四、銚子市起債ニ關スル調書
三五、自昭和十一年度至昭和三十七年度銚子市財政計畫書
三六、財政計畫ニ對スル說明
三七、銚子市水道布設目論見書
三八、銚子市水道布設計畫說明書
三九、銚子市水道布設工費計算書
四〇、衞生上特ニ必要アルニ因リ給水設備ヲ市費負擔トスル理由
四一、銚子市內井水試驗成績表

以上

次ノ昭和十二年三月二十五日上水道事業起債の件左記の通許可指令に接したり

地第一三八〇號
昭和十二年三月二十九日

千葉縣總務部長

銚子市長　川村芳次殿

起債許可ノ件

曩ニ許可申請相成候上水道布設ノ爲ニスル起債ノ件別途許可指令相成候ニ付及送付候也

內務省一一千地第一〇四號
千葉縣銚子市

昭和十一年八月三十一日銚庶第六六四號稟請起債ノ件左ノ通更正シ許可ス
昭和十二年三月二十五日

內務大臣　河原田稼吉
大藏大臣　結城豐太郎

記

一、借入時期　昭和十一年度　金拾七萬圓
　　昭和十二年度　金貳拾五萬圓

第三章　工事計畫

昭和十三年度　金貳拾參萬圓
但シ工事又ハ財政ノ都合ニ依リ夫々翌年度ニ繰越借入スルコトヲ得
借入期月ハ借入先ト協定スルモノトス

第五節　國庫補助

本市上水道布設ニ伴ふ國庫補助申請ニ就ては昭和十一年八月十四日市會に於て左の如く之を議決し昭和十二年二月二十五日付を以て內務大臣に補助申請書を提出せり

議案第九號

上水道布設費補助申請ノ件

本市上水道布設費ニ對シ國庫補助ヲ申請スルモノトス

昭和十一年八月十四日提出同日議決

銚水第三號

昭和十二年二月二十五日

內務大臣　河原田稼吉　殿

銚子市長　川村芳次

銚子市長　川村芳次

銚子市上水道布設費國庫補助申請

本市ハ昭和十一年度ヨリ昭和十三年度ニ至ル三箇年繼續事業トシテ總工事費金六拾五萬圓ヲ以テ上水道布設ノ儀昭和十一年八月市會ニ於テ議決致候ニ付テハ昭和十二年度ヨリ右事業費總額ニ對シ四分ノ一ノ國庫補助ヲ相仰キ候樣致度此段及稟請候也

添付書類（省略ス）

一、理由書

一、銚子市營上水道計畫概要

一、自昭和十一年度至昭和十三年度銚子市上水道布設費繼續年期及支出方法

一、自昭和十一年度至昭和十三年度銚子市上水道費（布設費ヲ除ク）繼續年期及支出方法

一、昭和十一年度銚子市特別會計上水道費歲入歲出豫算

一、昭和十二年度銚子市特別會計上水道費歲入歲出豫算

一、上水道布設費國庫補助申請ノ件議決書寫

右國庫補助に關しては內務省は昭和十三年度の豫算に計上し大藏省に對し之を要求する處ありたるも日支事變勃發の影響に依り殆んど成立の見込なき狀態に立ち至りたるを以て昭和十二年十二月全國關係各市町村長は急遽上京內務省に會同して上水道布設國庫補助期成同盟會を組織し內務大藏厚生の各省當局に對し補助實現方を極力陳情せるも遂に成立を見るに至らざりしを以て引續き之が實現に邁進し昭和十四年度に於て漸く目的を貫徹し政

府豫算に計上せらるゝに至り（復活運動の概要別記す）昭和十四年四月二十八日厚生省衛生局長より左記の通り水道費國庫補助に關する通牒に接したり

衛發第一五〇號
昭和十四年四月二十八日

千葉縣知事　殿

厚生省衛生局長

水道費國庫補助ニ關スル件通牒

曩ニ進達相成候標記ノ件別紙調書ノ通補助可相成見込ニ候條右年度割ノ通補助金受入ニ關スル市會ノ議決書ヲ添ヘ厚生大臣宛申請セシメラレ度

追而昭和十三年三月三日厚生省發衛第五號厚生省衛生局長内務省土木局長通牒第五項ノ次第モ有之内務大臣ニ副本ヲ提出相成度爲念

記

銚子市

年度割表（省略）

市は前記通牒に基づき昭和十四年五月二十九日上水道費國庫補助金受入の議決をなし申請書を提出し昭和十五年一月三十一日付を以て厚生大臣より補助指令に接したり

議案第二號

上水道費國庫補助金受入ノ件

本市上水道費國庫補助金拾四萬六千圓也左記年度割ニ依リ毎年度交付額ヲ受入ルルモノトス

昭和十四年五月二十九日提出

銚子市長　川村芳次

記

年度	補助額	年度	補助額
昭和十四年度	一、〇〇〇円	昭和二十三年度	一、〇〇〇
昭和十五年度	一、〇〇〇	昭和二十四年度	二、〇〇〇
昭和十六年度	一、〇〇〇	昭和二十五年度	二、〇〇〇
昭和十七年度	一、〇〇〇	昭和二十六年度	二、〇〇〇
昭和十八年度	一、〇〇〇	昭和二十七年度	二、〇〇〇
昭和十九年度	一、〇〇〇	昭和二十八年度	二、〇〇〇
昭和二十年度	一、〇〇〇	昭和二十九年度	二、〇〇〇
昭和二十一年度	一、〇〇〇	昭和三十年度	三、〇〇〇
昭和二十二年度	一、〇〇〇	昭和三十一年度	一〇、〇〇〇

昭和三十二年度	二〇、〇〇〇
昭和三十三年度	二七、〇〇〇
昭和三十四年度	四四、〇〇〇
昭和三十五年度	二〇、〇〇〇
計	一四六、〇〇〇

銚水第五二四號

昭和十四年六月一日

厚生大臣　廣瀬久忠殿

内務大臣　侯爵木戸幸一殿

銚子市長　川村芳次

上水道國庫補助金交付申請

本市上水道ニ對スル國庫補助金拾四萬六千圓也御交付相成度別紙書類相添ヘ此段申請候也

（別紙書類ハ上水道費國庫補助金受入ノ件省略ス）

衞第九六四號

昭和十五年二月十七日

銚子市長　川村芳次殿

千葉縣知事

水道布設費國庫補助ニ關スル件

曩ニ申請ニ係ル標記ノ件ニ關シ工事費豫算額金六拾五萬圓ヨリ左記金額ヲ控除シタル金五拾八萬六千七百六拾五圓ヲ補助基本額トシ補助スル旨衞生局長ヨリ通牒アリタルニ付キ了知相成度別紙補助指令及送付候也

記

一金五萬九千四百七拾五圓　配水管費中給水管分岐工費

一金壹千七百六拾圓　建築費中甲公舍費

一金貳千圓　建築費中乙公舍費

計六萬參千貳百參拾五圓也

厚生省千衞第一七號

千葉縣銚子市

昭和十二年二月二十五日銚水第三號申請水道布設費國庫補助ノ件聽届ケ金拾四萬六千圓ヲ別記年度割ノ通交付ス

但シ左ノ通心得ベシ

厚生大臣　吉田茂

昭和十五年一月三十一日

一、補助ハ其ノ市水道布設費五拾八萬六千七百六拾五圓ニ對シ補助スルモノトス

二、工事落成シタルトキハ本大臣ニ届出デ完了ノ認定ヲ受クベシ

三、工費ニ剩餘アリタルトキハ第一項補助ノ割合ニ依リ補助金ノ一部ヲ返還セシムルコトアルベシ

工事材料ニ剩餘アリタルトキハ時價ニ換算シ之ヲ剩餘ト看做ス

四、市ハ剩餘ヲ生ジタル工費若ハ工事用材料ヲ處分セムトスルトキハ其ノ處分方法ヲ定メ本大臣ニ稟伺スベシ

五、工事豫定ノ通リ進行セザルトキ又ハ期限ヲ過ギ落成ノ見込ナキモノト認ムルトキハ補助金ノ交付ヲ中止シ又ハ補助ヲ取消シ既ニ交付シタル補助金ハ之ヲ返還セシムルコトアルベシ

六、補助ヲ爲シタル水道設備ノ廢止若ハ變更ニ因リテ生ジタル不用土地物件アリタルトキハ之ヲ時價ニ換算シ第一項補助ノ割ニ依リ補助金ヲ返還セシムルコトアルベシ

別記

一金壹千圓　自昭和十四年座至昭和二十三年度毎年度交付額
一金貳千圓　自昭和二十四年度至昭和二十九年度毎年度交付額
一金參千圓　昭和三十年度交付額
一金壹萬圓　昭和三十一年度交付額
一金貳萬圓　昭和三十二年度交付額
一金貳萬七千圓　昭和三十三年度交付額
一金四萬四千圓　昭和三十四年度交付額
一金貳萬圓　昭和三十五年度交付額
計金拾四萬六千圓

上水道工事費國庫補助金交付申請書

一金壹千圓也

但シ昭和十五年一月三十一日付厚生省千衞第一七號ヲ以テ指令有之候補助金拾四萬六千圓ニ對スル昭和十四年度分

右御下附相成度此段及申請候也

昭和十五年二月二十三日

千葉縣銚子市長　川村芳次

厚生大臣　吉田茂殿

上水道國庫補助復活運動に關する概況

上水道國庫補助復活運動に關する概要左の如し

上水道國庫補助復活運動に關する概況

本市上水道國庫補助に關しては昭和十二年二月二十五日付内務大臣宛申請せるものにして爾來内務省土木局に於て全國上下水道補助割當額に付査定し内務省案を決定昭和十二年十月末大藏省豫算省議に廻付せられたり然るに國庫補助中止の情勢を察知せる内務省内都市研究會阿南常一氏より昭和十二年十一月二十七日午後四時川村銚子市長宛左記の通電報ありたり

電文

上下水道費國庫補助危シ關係方面ニ打電依頼セラレ度シ

市長は直に内務、大藏兩省關係方面に依頼電報を發すると共に翌二十八日上京す電文宛名左の如し

電文

本市上水道明年度國庫補助交付方ニ付テハ格別ノ御配慮中ト存ズルモ是非共成立致ス様特別ノ御高配ヲ請フ

宛名

内務大臣　馬場鍈一殿
大藏大臣　賀屋興宣殿
内務次官　廣瀬久忠殿
内務政務次官　勝田永吉殿
大藏次官　石渡莊太郎殿
大藏政務次官　太田正孝殿
内務省土木局長　安藤狂四郎殿
大藏省主計局長　谷口恒二殿

昭和十二年十一月二十八日市長上京す同日は恰も省議中にして補助を爲すべしとする内務省當局と之を打ち切らんとする大藏省當局と對立し兩省の主張相譲らず遂に政治的解決の止むなきに至りたり

全國市町村中上下水道布設工事補助申請中の關係市町村長は續々上京せるを以て銚子市長は之等市町村長と共に内務省大藏省の各次官局長及係官を歴訪し國庫補助せられ度旨數次に亙り懇願する所ありたり特に銚子市長は本市上水道に關し鐵管等鐵を必要とする主要材料は既に購入を了し工事中なる點を詳述し一方財政計畫に付ては

國庫補助ありて始めて健全なる自治財政の確立を期し得ることは既に認可當初より内務大藏兩省の關係當局の熟知せらるる所なる旨を力説し極力懇願せる爲石渡大藏次官も此の熱意により考慮を約し一時好轉の曙光を見たり然るに同夜兩省の最後的折衝の結果は遂に支那事變勃發に伴ふ鐵材關係及資金關係よりして補助中止案大勢を制し國庫補助削除の止むなきに至りたり

當時内務省案によれば本市上水道に對する國庫補助額は拾四萬六千圓（工事費の二割五分補助）にして之が中止を見るに至りたるは本市財政上の爲め誠に痛恨に堪へざる所なり

翌二十九日早朝川村市長及關係市町村長は内務省内に於て勝田政務次官及挾間衞生局長に會見し假令此際明年度の豫算に上下水道國庫補助の計上を見ざりしとは謂へ共の緊要なる所以は益々濃度を強めつゝある次第なるに依り今後に於ても内務省としては徹底的に御盡力を願ひ度しと懇請したる所其の旨を諒とせられたり而して凡そ此種の運動に付ては各々に爲すの不利なるに鑑み當時上京中の關係市町村長が發起人と爲ることを約し激を飛ばして同志を叫合し上下水道國庫補助期成同盟會を組織して更に當時上京中の各地元關係代議士に對しても之が復活の爲め盡力を煩すこととし取り敢へず市町村長の第一回會合を左の通開催することとなれり

上下水道國庫補助復活委員會

一、日時　昭和十二年十二月十三日午前十時
一、場所　内務省都市研究會

共の通牒文左の如し

第三章　工事計畫

拝啓陳者明十三年度上水道國庫補助危フシノ情勢ヲ聞知シ急遽上京去ル二十九日及三十日ノ兩日ニ亙リ内務大藏兩當局ニ面接シ又一面夫々關係者ヲ介シテ是非共補助實現方ヲ陳情シ極力猛運動ニ邁進致シ候ヘ共遂ニ内務省要求ノ右補助豫算ハ承認セラレサルノ悲運ニ逢着致シ候ハ御同樣頗ル遺憾トスル所ニ御座候就テハ關係市町村長一致協力ノ下ニ今後ノ對策ヲ樹立シ以テ之カ目的ノ貫徹ヲ期スヘク左記ノ通リ御會同ヲ仰キ度候間萬障御繰合セ御參會被成下度此段得貴意候

記

一、日　時　昭和十二年十二月十三日(月曜日)午前十時

一、場　所　東京市麹町區内務省内都市研究會

尚甚乍御手數左記事項御記入ノ上至急御回答相煩シ度申添候

一、市町村長氏名

一、十二月十三日出席者職氏名

昭和十二年十二月一日

右發起人（次第不順）

川崎市長　芝辻一郎
八戸市長　神田重雄
銚子市長　川村芳次
八尾町長　中村三徳
八屋町長　一木耕藏
燕町長　高橋平右衛門
住吉町長　横田政次郎

各關係市町村長宛

昭和十二年十二月十三日上下水道國庫補助期成同盟會を組織し其の會議の顚末左の如し（同盟會會議錄ノ寫）

一、開催月日　昭和十二年十二月十三日午前十時

二、場　所　内務省會議室

出席者

川崎市長　芝辻一郎
銚子市長　川村芳次
八戸市長　神田重雄
秋田市長　鈴木安孝
岡崎市長　菅野經三郎
舞鶴町長　川北正太郎
龍華町長　角田當喜三郎

會員一同より銚子市長を座長に推薦し會規約其他必要なる事項を順次審議す本日の會議に於て左記事項を決定せり

會議決定事項

一、上下水道國庫補助期成同盟會規約（別紙ノ通）

二、上申書（別紙ノ通）

八尾町長　中村三徳
加美村長　田中末吉
池田町長　前田金吾
住吉村長　横田政次郎
燕町長　高橋平右衛門
田邊町長　那須孫次郎
麻里布町長　八原昌照
八屋町長　一木耕藏
佐賀關町長　柏原幸一
鳴尾村長　樋口市右衛門

以上拾七名

三、會長ノ選擧

會員一同より銚子市長川村芳次氏を推薦す

銚子市長川村芳次氏會長に就任す

四、世話人ノ選擧

會長の指名推薦に依り左記六名に決定す

川崎市長　芝辻一郎
岡崎市長　菅野經三郎
八戸市長　神田重雄
八尾町長　中村三徳
池田町長　前田金吾
燕町長　高橋平右衛門

五、職員選任

庶務擔當水道協會主事　三位甚造
會計擔當　都市研究會　阿南常一

六、帝國議會開會前ニ世話人會ヲ開催スルコト

七、第一回陳情

第三章　工事計畫

地方財政益々多端の折柄會員各位の團結を強固にし關係各方面を歴訪し國庫補助復活の目的達成に邁進する事を約し會議終了後直ちに內務次官竝關係局課長を訪ね別紙上申書を提出第一回の陳情をなせり

次で昭和十二年十二月二十日各關係市町村に上下水道國庫補助復活運動概要報告(別記ノ通)をなすと共に左記運動方法を通知せり

記

一、直ちに運動に着手すること

二、關係市町村は各關係代議士に諒解を求め復活運動を依頼すること

三、來年一月の帝國議會開期に先立ちて本會總會を開き復活運動を起すこと　以上

上下水道國庫補助期成同盟會規約

第一條　本會ハ上下水道國庫補助期成同盟會ト稱シ國民保健衞生ノ完璧ノ爲メ國家ノ奬勵事業トシテ上下水道ノ布設ニ對シ國庫補助ノ實現ヲ期スルヲ以テ目的トス

第二條　前條目的達成ノ爲メ會員協力一致運動ヲ行フモノトス

第三條　本會ノ事務所ハ東京市京橋區銀座西五丁目共同建物ビル內水道協會內ニ設置ス

第四條　本會ノ會員ハ第一條ノ目的ヲ有スル同志ヲ以テ組織ス

第五條　本會ニ會長一名世話人若干名ヲ設ケ萬般ノ會務ヲ處理セシム

第六條　本會ノ經費ハ左記標準ニ依リ本會々員ノ負擔トス

事業費　五十萬圓以上年額五十圓
同　二十萬圓以上同　三十圓
同　二十萬圓未滿同　二十圓

昭和十三年度水道費國庫補助事業調

起業者	工費	補助額	起工、竣工年表	新設擴張ノ別	布設築造年月	會費負擔額
(水道之部)						
根室町（北海道）	二八九千円	1/4 七二千円	昭十三 十四	新設	申請中	三〇円
鶴舞町（京都）	四八〇	1/4 一二〇	〃 十二 十四	〃	〃	三〇
龍華町（大阪）	三二九	1/6 五五	〃 十二 十二	〃	昭一二、四	三〇
八尾町（〃）	三三五	1/4 八二	〃 十一 十二	〃	〃	三〇
加美村（〃）	二五〇	1/4 六〇	〃 十一 十二	〃	申請中	三〇
八戸市	一、三九二	1/4 三四八	〃 十一 十四	〃	〃	五〇
銚子市	五八六	1/4 一四六	〃 十一 十三	〃	昭一二、三	五〇
燕町（新潟）	三五五	1/4 八八	〃 十二 十四	〃	申請中	三〇

起業者	工費	補助額	起工、竣工年表新設擴張別	布設築造年月	負擔額
三谷町（愛知）	一二〇	1/4 三〇	〃十二 〃十三	〃	二〇
田邊町（和歌山）	二九五	1/4 七三	〃十三	〃	三〇
麻里布町（山口）	四七一	1/6 七八	〃十一 〃十三	〃	三〇
八屋町（福岡）	一一五	1/4 二八	〃十二	〃	二〇
阪神上水道市町村組合（兵庫）	一、八六〇	三六四	〃十二 〃十六	〃	五〇
池田町（大阪）	八九二	1/6 一四八	〃十一 〃十三	〃	五〇
佐賀關町（大分）	二七〇	（十四年度以降ニ係ル分）			三〇円
郡山町（奈良）	四五一				三〇
長濱町（滋賀）	七四〇				五〇
鳴尾町（兵庫）	三五〇				三〇
計一八（下水道ノ部）					
秋田市	三四七	一一五	昭和十二 〃十四 第二期擴張	申請中	三〇
川崎市	三、一六六	一、〇五五	〃十 〃十七 第四、五、六期擴張	昭一二、三	五〇
瀬戸市	八六三	二八七	〃十二 〃十六 新設	申請中	五〇
岡崎市	一、四七七	四九二	〃十二 〃十八 擴張	申請中	五〇
宮津町（京都）	八〇	二六	〃十一 〃十二 新設	昭一二、一	二〇
住吉村（兵庫）	八一八	二七二	〃十二 〃十五 新設	〃一二、六	五〇
若松市（福岡）	四六	一五	〃十二 〃十四 擴張	申請中	二〇
姫路市	二、五八八	（十四年度以降ニ係ル分）			五〇
計八					
合計二六件					

上申書

上下水道ノ設備ハ市町村ノ保健衛生施設ノ根幹ヲ爲シ國民體位ノ改善向上ト疫禍ノ防止ハ勿論現下非常時局ニ對應スル國土防衛等ノ施設トシテ一日モ忽セニスヘカラサルニモ拘ラス地方財政益々窮乏ヲ極メ一般市町村負擔ニ於テ之カ完備ヲ爲スコト至難ノ業ニ屬シ政府ノ助成奬勵ヲ俟ツニ非サレハ到底上下水道布設ノ普及徹底ハ期シ難ク延ヒテハ保安上將亦産業開發上國民生活ノ全般ニ及ス影響極メテ甚大ニシテ之カ遷延ハ實ニ寒心スヘキ結果ヲ招來シ洵ニ憂慮ニ堪ヘサル次第ニ有之候

伏シテ冀クハ右地方財政ノ現狀ヲ具サニ御洞察ノ上昭和十三年度以降ニ於テモ是等新規事業ニ對シ助成ノ途ヲ講セラルル樣格別ノ御詮議相仰度此段及上申候也

昭和十二年十二月十三日上下水道國庫補助期成同盟會

銚子市長　川村芳次
北海道根室町長　松尾豐次
京都府舞鶴町長　川北正太郎
大阪府龍華町長　角田當喜三郎
大阪府八尾町長　中村三德
大阪府加美村長　田中末吉
八戸市長　神田重雄
新潟縣燕町長　高橋平右衞門
愛知縣三谷町長　平野利作
和歌山縣田邊町長　那須孫次郎
山口縣椋野村長　八原昌照
福岡縣八屋町長　一木耕藏
阪神上水道市町村組合管理者　坂本助太郎

一

上下水道國庫補助復活運動概要報告

昭和十二年十二月十三日上下水道國庫補助期成同盟會第一回の運動方法は關係當局方面と各政黨本部方面の二

大阪府池田町長　前田金吾
秋田市長　鈴木安孝
川崎市長　芝辻一郎
瀨戸市長代理助役　野田茂四郎
岡崎市長　菅野經三郎
京都府宮津町長　三井長右衞門
兵庫縣住吉村長　横田政次郎
福岡縣若松市長　田中無事生
兵庫縣鳴尾村長　樋口市右衞門
奈良縣郡山町長　戶口米次郎
滋賀縣長濱町長　福田寅吉
大分縣佐賀關町長　柏原幸一
姬路市長　田寺俊信

班に分ち前班は銚子、秋田、岡崎の三市、舞鶴、八尾、池田、燕、八屋、郡山、長濱の七町及び住吉、鳴尾二村の各市町村長にして先づ内務省に勝田政務次官、木村參與官、安藤土木局長を歴訪親しく面接して事情を具さに陳述し、後ち大藏省に石渡次官代理侯爵伊達事務官と面談夫々要旨を詳述陳情して篤と諒解方を悃願して辭し其の他は不在の爲め文書課長宛夫々陳情書を提出せり。後班は川崎、八戸の兩市竝に田邊、麻里布の兩町にして先づ民政黨に小泉幹事長、勝、野村の兩總務及三好代議士、政友會本部に安藤總務、社會大衆黨に平野、織本兩代議士を夫々歴訪面談して上下水道國庫補助復活に關する誼力方を縷々陳情依頼せり。

翌十四日は午前十時に内務省内都市研究會に一木八屋町長、前田池田町長、西尾八尾町助役等參集の上大藏省を再訪し谷口主計局長及氏家豫算課長に面會を求めたるも生憎重要會議中の故を以て面接不叶、豫算課河野主任事務官に面會して國庫補助復活に就き陳情し次いで民政黨に至り勝總務及末松代議士等に面接して之が極力誼力方を悃願依頼せる處各政黨代議士とも一樣に本旨に就き絶大の理解と同情を持たれ本旨貫徹の爲めには強烈なる運動をなす樣述べられ一同大いに意を強ふせり。

本市は昭和十二年十二月二十日上下水道國庫補助期成同盟會の通知に基き關係代議士の諒解を求め復活運動を依頼せり（依頼文左の如し）

謹啓峭寒の候益〻御清祥の段奉賀候

陳者兼てより格別の御高配を賜り居り候本市上水道工事は（自昭和十一年度至昭和十三年度）間の三ヶ年繼續事業として總工費六拾五萬圓を以て目下工事進行中に有之候處本市は新興都市として各般に亘り緊急施設を要するもの多く從つて財政又多端にして一般市費の負擔に依り之が完成を期する事は素より至難にして政府の助成奬勵に俟つて漸く水道事業財政の收支均衡を得せしめんとする計畫に有之候

然るに上下水道國費補助に關し客年末内務省は明年度豫算に之を計上し大藏省に對し要求せしも遂に大藏當局の承認する所とならず削除せられたる次第に有之候本市上水道の財政計畫は總工費の四分の一の國庫補助を見込み樹立したるものにして之が中止せらるゝ事は計畫の根底に於て重大なる齟齬を來し財政上頗る憂慮致居次第に御座候更に之が全國上下水道布設の普及徹底に及す影響尠からず現下非常時局に際し地方産業開發竝に國民の體位向上の根幹を爲すべき此種施設の遲延するが如きは國家の爲洵に寒心に堪へざる次第に有之候

就ては客年末全國關係市町村長を以て上下水道國庫補助期成同盟會を組織し不取敢別紙上申書を其筋へ提出して專ら之が復活の爲努力致し居り候得共其の目的貫徹の爲には是非關係代議士各位の御盡力を相仰ぎ度候間何卒地方財政の窮狀を御洞察の上右補助復活の爲格別の御高配を賜り度

何れ不日上京の上委細具陳可致候間不取敢以書中御依頼申上度如斯に御座候

昭和十三年一月十八日上下水道國庫補助期成同盟會長銚子市長川村芳次　敬具

記

一、開會日時　昭和十三年一月二十六日午前十時

一、場　所　内務省内都市研究會内

昭和十三年一月二十六日内務省第二會議室に於て第二回總會を開催し出席者は銚子、秋田、川崎、岡崎、八戸、

瀬戸の六市長、八尾、燕、池田、舞鶴、龍華、田邊、麻里布、八屋、宮津、郡山の十町長、加美、住吉、鳴尾三村長及阪神上水道市町村組合管理者にして午前十時三十五分開會す、依て會長より厚生省の新設に伴ひ國民保健に關する事項は同省衞生局所屬となりし旨を述べて議に入り即時厚生省竝各政黨に陳情する件竝に明二十七日關係市町村は各關係代議士に諒解を求め二十八日午前十時再び內務省に會同打合をなし同日午後五時丸の內東京會館に各關係代議士を招待して第七十三帝國議會開會中上下水道國庫補助復活の實現に邁進する件を決定し直に厚生省竝各政黨を歷訪せり

次で一月二十八日東京會館に於て本會々員と關係代議士との會合を爲したるが實に豫期以上の良好なる結實を收め關係代議士間に於て衆議院內に院內期成同盟會を作ることとなり各派より九名の世話人を選び一月三十一日午後零時半衆議院議長應接室に世話人の初會合を開くことを決定せり

院內水道補助期成同盟會設立と其の運動

昭和十三年一月二十八日丸の內東京會館に於ける關係代議士招待會は代議士側出席者二十名期成同盟會側二十六名にして同席上期成同盟會長たる川村銚子市長の爲したる挨拶竝に當日出席者關係代議士の氏名左の如し。

關係代議士側	千葉縣選出代議士	今井健彥君
	同	吉植庄亮君
	大阪府選出代議士	曾和儀一君
	同	杉山元治郎君
	同	田中萬逸君
	新潟縣選出代議士	松井郡治君
	同	北昤吉君
	秋田縣選出代議士	信太儀右衞門君
	同	中田儀直君
	青森縣選出代議士	工藤鐵男君
	同	森田重次郎君
	同	小笠原八十美君
	和歌山縣選出代議士	西田郁平君
	同	木本主一郎君
	同	小山谷藏君
	同	世耕弘一君
	山口縣選出代議士	西村茂生君
	福岡縣選出代議士	小池四郎君

川村會長挨拶

代議士各位に於かれましては常に國政の爲に心を碎かれ殊に又吾々地方の爲にも一方ならざる御盡力を辱ふ致して居りますことは誠に感謝に堪えざる所であります

殊に現下時局彌々重大なるときに際し議會開會中日夜御奮鬪遊ばされ居らるゝことは誠に感激の外御座いませぬ

此の大切なるときに當り如何かとは思ひましたが豫ねて地元市町村當局より個々に御依頼申上げ特別の御配意を辱ふ致して居りまする上下水道國庫補助問題に關し今回關係市町村當局の會同致しました機會に於きまして是非關係代議士各位の御指導御教示を御願ひ致したいと言ふ所から今夜の會を催しました次第でありますが斯く多數御來駕を賜はりましたることは一同の深く光榮とする所でありまして謹みて御禮申上げる次第であります

實は既に御聞き及びの通り政府は昭和十三年度より突如上下水道の國庫補助を中止すると言ふことに致されましたのでありますが吾々地方民の驚愕は實に一方ならざるものがあるのであります、と同時に其の事が時勢に即せず且矛盾撞着の甚だしく國家の爲誠に遺憾に堪えざる所でありますので吾々は直に個々に夫々復活要請を致しましたが遂に效を奏せざりし爲に次で上下水道國庫補助期成同盟會を組織し全國關係市町村當局が一丸と爲りまして之が對策に腐心致して居る次第であります。

由來上下水道布設の使命は申し上げる迄もなく

(1) 保健衛生即ち國民の體位向上と疫禍の防止
(2) 産業を開發し國力の增進
(3) 火災を豫防し國民の生命財産の安全
(4) 戰時事變に際し都市の慘禍を防止し防空防護等の上に實に緊要なる施設でありまして謂はゞ富國强兵の根基培養の上に絶對になくてならぬ施設であると思ひます

然るに地方自治團體の實際の資力は一切を擧げて自己資金を以ては之を能くすることは到底不可能の狀況にあるのであります從て政府も亦之を認め上水道に對しては明治二十一年より下水道に對しては明治三十三年より補助し來つた次第であります

斯くの如く極めて古き沿革を有する重要なる補助政策を昭和十三年度より突如として中止すると謂ふが如きは實に何んたる遣り方であらうか吾々は只々亞然たらざるを得ぬ次第であります、今若し之を此の儘にするとするならば

(1) 補助の中止に依り上下水道の普及は著しく阻害せられ政府が厚生省迄作つて標榜しつゝある國民の體位向上其の他各省が懸命の努力を拂ひつゝある國力の進展策に相反するの結果を來し

（2）又從來布設したる市町村は比較的富有且事業の容易なりしものが補助を受けたるに反し今後布設せんとする市町村は比較的資力微弱且事業の困難なるに拘らず其の恩典に浴し得られざるの矛盾を招來するに至るのであります

吾々一同は職を市町村の長に奉ずる以上今後更に一層時局の重大なるを深く慮ひ銚後經營に萬全を期せんことに強き覺悟と責任を感ずるものでありまするが之を思ふとき吾々は一日も速かに上下水道布設の完きを期し銚後經營上に萬遺憾なきを期したいと思ふ次第であります就きましては之が布設費の補助を是非昭和十三年度より致さるゝ樣願ひ度い次第であります

吾々國民の選良たる代議士各位には以上の事情を宜敷御洞察下さいまして之が目的達成の爲に絕大なる御盡力と深甚なる御指導を賜はらんことを冀ふ次第であります

甚だ失禮乍ら重ねて代議士各位の御尊來を辱ふ致したる御厚意を謝し本問題解決の爲に最善の御努力を賜はる樣御願致し御挨拶に代へる次第であります。

右期成同盟會長の挨拶の後更に中村八尾町長より地方の狀況を詳說せられ。之に對し小山代議士は國庫補助復活の實行方法を如何にすべきやと提議し今井代議士は院內にて期成同盟會を組織し所期の目的達成に邁進するの外なきを述べ且つ關係代議士七十七名に對しては本會各會員より諒解濟なるを以て七十七名より成る院內水道補助期成同盟會を組織することを提議し一同之に贊成したるを以て茲に院內に吾人の希望を反映して團結を見るに至りたるは本會々員の熱誠と關係代議士の熱情とに依るものなり。定刻に少し遲れて靑森縣選出代議士工藤厚生政務次官來會せられ公衆衞生上より本會の趣旨に同感なる旨を述べられたるは錦上花を添えたるものと謂ふべし。茲に芽出度く院內期成同盟會の成立を見、晩餐後散會したるは午後九時なりき。院內水道補助期成同盟會員及世話人左の如し。

關係議員名簿　○世話人

選擧區	委員	黨派	氏名
千葉二		政	○今井健彥
千葉二	請	民	宇賀四郎
大阪五		民	勝田永吉
大阪五	懲	政會	和義一
大阪五		社大	○杉山元治郎
大阪五	豫	民	○田中萬逸
新潟一	請	民	松井郡治
新潟一	豫	民	○北吟吉
秋田一		民	町田忠治
秋田一		民	中川重春

選擧區	委員	黨派	氏名
千葉二	決理	政	吉植庄亮
愛知二		政	丹下茂十郎
愛知四	建	民	大野一造
愛知四		民	岡本實太郎
愛知四	豫理	政	小笠原三九郎
愛知五		政	大口喜六
愛知五	建	議倶	鈴木正吾
愛知三	豫	東方	杉浦武雄
愛知二	建	政	樋口喜右衞門
愛知一		民	服部崎一

秋田一　民　信太儀右衛門　北海道五　政　木下成太郎
秋田一　請長　政　中田幾重　北海道五　政　東條貞
神奈川二　民　小泉又次郎　北海道五　建　遠山房吉
神奈川二　社大　片山哲　北海道五　決　民　南雲正朔
神奈川二　建　政　小串清一　京都三　民　津原武
神奈川二　政　野口喜一　京都三　民　村上國吉
愛知二　建　議倶　安藤孝三　京都一　民　中村三之丞
青森一　豫　民　工藤鐵男　福岡二　民　田島勝太郎
青森一　懲　民　○森田重次郎　福岡二　民　松尾三藏
青森一　豫理　政　小笠原八十美　福岡四　豫　民　勝正憲
和歌山一　決　政　西田郁平　福岡四　民　末松偕一郎
和歌山一　政　木本主一郎　福岡四　議倶　○小池四郎
和歌山一　豫　政　松山常次郎　福岡四　懲　社大　○田原春次
和歌山二　民　小山谷藏　兵津一　豫　政　中井一夫
和歌山　政　世耕弘一　兵庫一　社大　河上丈太郎
山口二　政　○西村茂生　兵庫一　民　野田文一郎

山口二　決　政　中野治介　兵庫一　請　社大　永江一夫
山口二　懲　政　國光五郎　兵庫一　豫理　民　濱野徹太郎
山口二　懲　民　福田悌夫　兵庫二　豫　民　前田房之助
山口二　議倶　窪井義道　兵庫二　建　民　小林房之助
福岡二　豫　政　石井徳久次　兵庫二　社大　米窪滿亮
福岡二　社大　龜井貫一郎　奈良　民　八木逸郎
福岡二　政　田尻生五　奈良　民　松尾四郎
奈良　政　福井甚三　滋賀　民　青木亮貫
奈良　建　政　森榮藏　滋賀　民　堤康次郎
奈良　建　議倶　○江藤源九郎　滋賀　民　長野綱良
滋賀　東方　田中養達　大分一　民　一宮房治郎
滋賀　政　服部岩吉　大分一　無　金光庸夫
滋賀　政　森幸太郎

昭和十三年二月七日院内水道補助期成同盟會より上下水道國庫補助期成同盟會長に左記の通知に接したり

拝啓　時下愈々御清榮奉慶賀候

陳者去月二十八日東京會館に於ける本會成立の狀況及去月三十一日衆議院議長應接室に開きたる第一回世話人會

竝本月二日同所に於て開きたる第二回世話人會の記事を同封御送付申上候第二回世話人會の際は本會員八木代議士も同席の上大藏大臣賀屋興宣氏と會見し本會の目的達成に努めたる結果賀屋藏相より懇談的に上下水道國庫補助を全然打切る意思なき旨を仄かされ候間次年度に復活實現を期し本會を持續致度此段得貴意候

尙本會陳情書添付致候

昭和十三年二月七日

院内水道補助期成同盟會

世話人

今井健彦
杉山元治郎
田中萬逸
北吟吉
小笠原八十美
西村茂生
小池四郎
田原春次
江藤源九郎

敬具

上下水道國庫補助期成同盟會

會長　銚子市長　川村芳次殿

院内水道補助期成同盟會記事

一、本會の成立

昭和十三年一月二十八日午後五時丸の内東京會館に於て上下水道國庫補助期成同盟會主催の關係代議士招待會の際同會々長川村銚子市長より昭和十三年度水道費國庫補助が内務省と大藏省との間に幾度かの折衝の後終に昨年十一月三十日の閣議に於て之が削除決定せられたる經緯を述べ國民保健衛生上又は國防上より上下水道事業の必要なる所以を說き地方財政窮乏の爲め國庫補助なきときは之が遂行に支障を來すを以て上下水道國庫補助期成同盟會を組織し國庫補助の復活に努め尙之に關し關係代議士の至大なる助力を願ふ旨を力說せられたり之に對し小山代議士は國庫補助復活の實行方法を如何にすべきやと提議し、今井代議士は院内にて期成同盟會を組織し所期の目的達成に邁進するの外なき旨を述べ且つ關係代議士に對しては各市町村長より各諒解濟なるを以て是等關係代議士より成る院内水道補助期成同盟會を組織し運動することを提言し一同之に贊成す。次に其の世話人を左記の九氏に定めたり。

院内水道補助期成同盟會

世話人　今井健彦君
同　杉山元治郎君

一、第一回世話人會

昭和十三年一月三十一日午後零時三十分衆議院議長應接室に於て世話人會を開く。集會者左記の七名なり。

同　田中萬逸君
同　北　昤吉君
同　小笠原八十美君
同　西村茂生君
同　小池四郎君
同　田原春次君
同　江藤源九郎君

今井健彦君
杉山元治郎君
田中萬逸君
西村茂生君
小池四郎君
田原春次君
江藤源九郎君

議に入り院内水道補助期成同盟會の名稱の下に本會々員名を列記し陳情書を提出することを議決し陳情書には新規上下水道事業に對する昭和十三年度水道國庫補助額を明記し置くこと、同陳情書を議員一同に配付することと尚政府當局者に會見を申込むことを議決せり。

一、第二回世話人會

昭和十三年二月二日午前十時衆議院議長應接室に今井、杉山、小池、江藤及八木代議士集合し貴族院事務局竝衆議院事務局に委託して貴族院議員竝衆議院議員一同に陳情書を配付し大に氣勢を揚ぐることを決し會見豫約の賀屋大藏大臣の來室を待つこと時餘、午前十一時賀屋藏相來會せらる、先づ今井代議士より新規上下水道事業者は既に國庫補助を財源として事業に着手し工事中のものあり或は鐵管の購入又は購入契約濟のものあり之に對する國庫補助なきときは事業遂行上支障を來すに至る處あるを以て追加豫算に計上し昭和十三年度に於て新規上下水道事業に對する國庫補助の復活方を陳情せり。之に對し藏相は鐵節約の趣旨よりして國庫補助も休むことゝせる旨答へらる。列席の各代議士は藏相に對して新規上下水道事業に對して將來國庫補助を打切る意思なるかと質したる所、藏相は然らず全然打切るものに非ずして一時休みしに過ぎずと答へらる。更に各代議士より追加豫算に計上され度旨陳情したるに對し藏相は追加豫算として計上するを欲せず將來復活の機會あるべき旨を仄かされ藏相と各代議士間に懇談あり。藏相の辭去を俟つて再び世話人會を開き本日の藏相との會見談は相互秘密を守り紳士協約とし今後本會の目的達成に向つて進むべき旨申合せ本會は今後尚之を繼續することを決定せり。尚ほ本日藏相と會見の結果竝に兩院議員一同に向つて陳情書を配布し氣勢を揚ぐるの策を改め本

會々員に限り陳情書及報告書を配布し且つ内容を秘密にすることを約し午前十一時半散會せり。

陳情書

上下水道ノ設備ハ市町村ノ保健衛生施設ノ根幹ヲ成シ國民體位ノ改善向上ト疫禍ノ防止ハ勿論現下非常時局ニ對應スル國土防衛等ノ施設トシテ一日モ忽セニスヘカラサルニモ拘ラス地方財政益々窮乏ヲ極メ一般市町村負擔ニ於テ之カ完備ヲ爲スコト至難ノ業ニ屬シ政府ノ助成奬勵ヲ俟ツニ非サレハ到底上下水道布設ノ普及徹底ハ期シ難ク延ヒテハ保安上將タ產業開發上等國民生活ノ全般ニ及ホス影響極メテ甚大ニシテ之カ遷延ハ實ニ寒心スヘキ結果ヲ招來シ洵ニ憂慮ニ堪ヘサル次第ニ有之候

惟フニ此ノ補助制度ハ明治二十一年始メテ創定セラレ爾來今日ニ及ヘリ昭和十三年度ニ於ケル新規上下水道事業者二十一箇所ニシテ之ニ對スル國庫補助額三百九十五萬四千圓ニ達スルモ當初年度ニ於テハ一件ニ付千圓ヅツ交付セラルルヲ以テ其ノ補助額二萬一千圓ナリ而シテ是等ノ都市ハ既ニ工事ニ著手セルモノアリ或ハ鐵管ノ購入又ハ購入契約濟ノモノアリ然ルニ之ニ對スル國庫補助ナキトキハ事業遂行上一大支障ヲ來タスコト相成候

冀ハクハ右事情御洞察ノ上昭和十三年度以降ニ於テモ是等新規事業ニ對シ助成ノ途ヲ講セラルル樣格別ノ御詮議相仰度此段及陳情候也

昭和十三年一月三十一日

院内水道補助期成同盟會

世話人　今井健彦

同　杉山元治郎
同　田中萬逸
同　北　昤吉
同　小笠原八十美
同　西村茂生
同　小池四郎
同　田原春次
同　江藤源九郎
同　吉植庄亮
同　宇賀四郎
同　勝田永吉
同　曾和義一
同　松井郡治
同　町田忠治
同　中川重春
同　信太儀右衛門

中田儀直
小泉又次郎
片山哲
小串清一
野口喜一
安藤孝三
丹下茂十郎
大野一造
岡本實太郎
小笠原三九郎
大口喜六
鈴木正吾
杉浦武雄
樋口喜右衞門
服部崎一
木下成太郎

東條貞
遠山房吉
南雲正朔
津原武
村上國吉
中村三之丞
工藤鐵男
森田重次郎
西田郁平
木本主一郎
松山常次郎
小山谷藏
世耕弘一
中野治介
國光五郎
福田悌夫

窪井義道
石井德久次
龜井貫一郎
田尻生五
田島勝太郎
松尾三藏
勝正憲
末松偕一郎
中井一夫
河上丈太郎
野田文一郎
永江一夫
濱野徹太郎
前田房之助
小林房之助
米窪滿亮

殿

前記通知に接したるを以て會長は會員に左記の通り通知を發したり

拜啓　益々御清榮奉賀候

陳者本年一月二十八日東京會館に於ける關係代議士招待會の席上關係代議士間に於て成立したる院內水道補助期

八木逸郎
松尾四郎
福井甚三
森榮藏
田中養達
服部岩吉
森幸太郎
青木亮貫
堤康次郎
長野綱良
一宮房治郎
金光庸夫

成同盟會の記事同封送付致候同會第二回世話人會の席上賀屋藏相は水道費國庫補助を打切る意思なき旨言明せられ候段一縷の曙光を伺はれ候も本年の復活覺束なく又明年必ず復活すへしとの言明無之遺憾の至りに御座候只此の上は本會の運動を怠らず國庫補助復活の實現に邁進致度乍此上一層の御配意と御努力の程奉悃願候　敬具

昭和十三年二月十日

上下水道國庫補助期成同盟會

會長　銚子市長　川村芳次

川村銚子市長殿

本市は上下水道國庫補助復活問題に關し左記の通全國市長會竝水道協會總會に附議事件として提出し同會に於て決議夫々關係當局竝政黨方面に陳情せり

記

一、昭和十三年四月二十三日全國市長會提出

上下水道事業費國庫補助金ノ交付ヲ復活セラレンコトヲ建議ス

一、昭和十三年六月六日水道協會提出

上下水道事業費國庫補助金ノ交付ヲ復活セラレンコトヲ建議ス

上下水道國庫補助問題に付ては前述の通り極力復活運動に邁進したるも遂に昭和十三年度は遺憾ながら中止せらるゝの止むなきに至りたるを以て昭和十四年度に於て更に之が復活を圖る爲左記の通上下水道國庫補助期成同盟會世話人會を開催し其の對策を協議し直ちに關係當局に陳情せり

記

一、日時　昭和十三年十月三日午前十時

一、場所　東京市麹町區內務省內都市研究會

昭和十三年十月十八、十九ノ兩日東京ニ上下水道費國庫補助期成同盟會ヲ招集ス

內務省三階會議室ニ於テ會議ヲ開ク、參集セル者左ノ如シ

會長　銚子市長　川村芳次

世話人　大阪府八尾町長　中村三德

同　新潟縣燕町長　高橋平右衛門

同　大阪府池田町長　前田金吾

同　秋田市長　鈴木安孝

同　川崎市長　芝辻一郎

同　岡崎市長　菅野經三郎

同　北海道根室町長　松尾豐次

同　舞鶴市長　川北正太郎

同　大阪府龍華町長　角田當喜三郎

大阪府加美村長　田中末吉
八戸市長　神田重雄
愛知縣三谷町長　平野利作
和歌山縣田邊町長　那須孫次郎
山口縣厶里布町長　八原昌照
福岡縣八屋町長　一木耕藏
阪神上水道市町村組合管理者　阪本助太郎
瀨戸市長　古村貫三郎
京都府宮津町長　三井長右衞門
兵庫縣住吉村長　横田政次郎
福岡縣若松市長　柳川精四郎
兵庫縣鳴尾村長　樋口市右衞門
奈良縣郡山町長　戸口米次郎
滋賀縣長濱町長　福田寅吉
大分縣佐賀關町長　柏原幸一
姬路市長代理助役　川口南海雄
德山市長　本城嘉守
高松市長　富家政市

本會々長タル川村銚子市長議長席ニ着キ先ヅ新ニ本會ニ加盟セル姬路、德山及高松市ヲ紹介シ次デ本年一月以來各種方法ニ依リ爲シタル運動ノ經過ヲ詳細報告ス

次ニ今次ノ運動方法トシテ一同打揃ヒ厚生省及大藏省ノ當局ニ委曲陳情スルコト、シタシト諮リ滿場一致其ノ決定ヲ見タリ

而シテ其ノ際提出スベキ上申書ヲ左ノ通リ決定ス

上申書

上下水道ノ設備ハ市町村ノ保健衞生施設ノ根幹ヲ成シ國民體位ノ改善向上ト疫禍ノ防止ハ勿論現下非常時局ニ對應スル國土防衞及產業開發等ノ施設トシテ一日モ忽セニスヘカラサルモノアリ然ルニ政府ハ昭和十三年度ニ於テ是等ノ新規事業ニ對シテ國庫補助ヲ中止セラレタルハ甚タ遺憾ニ堪ヘス加之地方財政ノ現狀ハ時局ノ影響ニ因リ益窮乏ヲ極メ一般市町村ノ負擔ニ於テ之カ完備ヲ爲スコト至難ノ業ニ屬シ政府ノ助成奬勵ヲ俟ツニ非サレハ到底其ノ普及徹底ヲ期シ難ク延ヒテハ國民生活ノ全般ニ及ホストコロ極メテ甚大ニシテ之カ遷延ハ實ニ寒心スヘキ結果ヲ招來シ洵ニ憂慮ニ堪ヘサル次第ニ有之候

伏シテ冀クハ右地方財政ノ現狀ヲ具サニ御洞察ノ上昭和十四年度ニ於テハ是非共是等事業ニ對シ國庫補助相成候樣格別ノ御詮議相仰度此段及上申候也

昭和十三年十月十八日

上下水道費國庫補助期成同盟會

銚子市長　川村芳次
北海道根室町長　松尾豐次
舞鶴市長　川北正太郎
大阪府龍華町長　角田當喜三郎
大阪府八尾町長　中村三德
大阪府加美村長　田中末吉
八戸市長　神田重雄
新潟縣燕町長　高橋平右衞門
愛知縣三谷町長　平野利作
和歌山縣田邊町長　那須孫次郎
山口縣麻里布町長　八原昌照
福岡縣八屋町長　一木耕藏
阪神上水道市町村組合管理者　坂本助太郎
大阪府池田町長　前田金吾
秋田市長　鈴木安孝
川崎市長　芝辻一郎
瀨戸市長　古村貢三郎
岡崎市長　菅野經三郎
京都府宮津町長　三井長右衞門
兵庫縣住吉村長　横田政次郎
福岡縣若松市長　柳川精四郎
兵庫縣鳴尾村長　樋口右衞門
奈良縣郡山町長　戸口米次郎
滋賀縣長濱町長　福田寅吉
大分縣佐賀關町長　柏原幸一
姬路市長代理助役　川口南海雄
德山市長　本城嘉守
高松市長　富家政市

午前十一時先ヅ厚生省ヲ訪ヒ工藤政務次官、廣瀨次官、林衞生局長、會計課長等ニ面接シ「昭和十四年度ニ於テハ必ズ國庫補助ヲ交付セラルヽ樣徹底的ノ御努力ヲ煩シ度キ」旨ヲ陳情シ上申書ヲ手交ス又大藏省ニ於テハ太田

政務次官、石渡次官、谷口主計局長等ニ面接シ「昭和十四年度ニ於テハ必ズ國庫補助ノ成立スル様格別ノ配慮ヲ得度」旨ヲ陳情シ之亦上申書ヲ手交シタリ

尙木戸厚生大臣及池田大藏大臣ニ對スル上申書ハ祕書官又ハ文書課長等ニ手交方ヲ依頼シ置キタル外不在中ナリシ兩省參與官、厚生省保健課長、大藏省豫算課長、大藏省河野事務官等ニハ之亦上申書ノ取次ギ方ヲ依頼シ置キタリ、而シテ各政黨本部ニ對シテモ同様ノ上申書ヲ夫々提出スルコト、セリ右終リテ一同更ニ內務省會議室ニ集合シ次ノ事項ヲ決定ス

一、世話人增員方ヲ議長ヨリ提議シ一同議長ニ於テ適宜指名セラレタシトノコトナルヲ以テ議長ハ左ノ五市町村ヲ指名ス

八戸市、德山市、高松市、和歌山縣田邊町、兵庫縣住吉村

二、院內水道補助期成同盟會(代議士ニ於テ結成ノ會)世話人ト連絡ヲ取ルノ必要アリ仍テ會長ニ於テハ夫々代議士世話人ト交涉ヲ遂ゲ來ル十一月八日ヨリ同十日迄ノ間ニ於テ相互會同スル様適當ノ措置ヲ取ルコトニ付一切ヲ會長ニ一任ス

三、政府ノ豫算ニ對スル狀勢如何ニ依リテ會長ハ臨機ノ措置ヲ取ル様一切ヲ一任ス

右ヲ以テ散解セシガ其後引續キ全世話人居殘リ今後ノ運動方法ニ關シ更ニ充分ナル打合ヲ遂ゲ散會シタリ

院內水道補助期成同盟會に於ても昭和十三年十一月十四日午前十時厚生省政務次官室に關係代議士會を開催し昭和十四年度に於て之が實現を期すべく協議打合を爲せり

次て上下水道國庫補助期成同盟會世話人竝院內世話人相携へ關係當局に復活運動をなし之が要望の結果大藏省に於て事業認可未濟のものを除き他は厚生省原案通り承認せられ昭和十三年十二月二日の閣議に於て右補助豫算決定し次て第七十四帝國議會の協贊を經るに至り玆に期成同盟會の目的貫徹を見るに至りたり

第六節　縣費補助

本市上水道布設に伴ふ縣費補助の件は國庫補助と同様市會に於て左の如く之を議決し昭和十三年二月十四日本縣知事に申請書を提出結局工事費の起債償還期間中毎年度二千六百圓此の總額六萬五千圓の補助金の交附を受くることとなれり

議案第一〇號

上水道布設費補助申請ノ件

本市上水道布設費ニ對シ縣費補助ヲ申請スルスノトス

昭和十一年八月十四日提出同日議決

縣費補助金豫定表

銚子市長　川村芳次

銚水第五號

上水道布設工事費補助申請ノ件

一、工事執行場所

銚子市一圓(昭和十二年二月十一日合併セル舊高神村海上村ノ區域ヽ除ク)

一、工事ノ種類

上水道布設工事

年度	補助金	年度	補助金
昭和十一年度	一、七〇〇	昭和十七年度	六、五〇〇
昭和十二年度	四、二〇〇	昭和十八年度	六、五〇〇
昭和十三年度	六、五〇〇	昭和十九年度	六、五〇〇
昭和十四年度	六、五〇〇	昭和二十年度	六、五〇〇
昭和十五年度	六、五〇〇	昭和二十一年度	四、八〇〇
昭昭十六年度	六、五〇〇	昭和二十二年度	二、三〇〇
計			六五、〇〇〇

一、工事仕様書竝設計書及工事進行程度

工事仕様書竝設計書ハ曩ニ認可申請書添付提出セシ通

工事進行程度　總經費ニ對スル五割一分二厘ニシテ別紙調書ノ通(省略)

一、工事豫定金額

金六拾五萬圓也

一、補助申請ノ事由

上水道ノ布設ハ本市ノ現狀ニ鑑ミ保健衞生火災豫防竝ニ産業振展上常ニ市民ノ要望セシ所ニシテ焦眉ノ急ナレバ一日モ之ヲ忽諸ニ附スベカラサルコトヲ認メ曩ニ市會ノ議決ヲ經テ之カ布設ノ決定ヲ見ルニ至レリ然ルニ本事業施行ニ對スル財源ニ就テハ悉ク之ヲ市債ニ仰ギ五ケ年据置キ二十ケ年賦ヲ以テ償還スルノ計畫ヲ樹テ其ノ償還財源ハ國及縣ノ補助金及水道使用料其ノ他一般歳入ヲ以テ充當スルノ外途ナキ財政狀態ニシテ而モ一般歳入ニ於テハ市稅ノ制限外課稅及基本財産ノ運用等ニ依リ辛ウジテ之ヲ經理セルノ狀況ニアルヲ以テ特ニ縣費補助金ノ交付ヲ仰ギ本事業ノ遂行ヲ期セントス

右昭和十二年四月二日付衞第七五七九號ヲ以テ水道布設ノ認可ヲ得工事執行中ニ有之候ニ付御補助相成度此段及申請候也

昭和十三年二月十四日

銚子市長　川村芳次

千葉縣知事多久安信殿

右縣費補助申請ニ對シ昭和十三年二月二十四日付を以て左記の通指令ありたり。

衛第一、一七九號

昭和十三年二月十四日付銚水第五號ヲ以テ申請ニ係ル上水道布設工事費補助ノ件閣ケ昭和十二年度ニ於テ金貳千六百圓也ヲ交付ス但シ補助金交付申請ニ際シテハ工事進捗ノ程度ヲ具申スベシ

昭和十三年二月二十四日

千葉縣知事　多久安信

銚子市

以上　縣費補助に付ては爾後毎年度補助申請の手續を爲すものとす

第四章　實施計畫

第一節　實施設計認可

昭和十二年三月二十五日付上水道布設認可に伴ひ左記事項の通牒ありたるを以て同年九月二十七日實施設計を樹て申請書を提出し昭和十二年十一月二十四日内務大臣の認可を得たり。

記

一、當初水源井ヲ整設シ水量及水質ノ嚴密ナル試驗ヲ行ヒ其ノ結果ヲ報告シ其ノ他ノ施設ニ就テハ右ノ結果ニ基キ適當ナル實施設計ヲ樹テ更メテ許可ヲ申請スルコト

銚水第二〇號

上水道布設實施設計認可申請書

本年三月二十五日付内務省一一千衛第一〇號ヲ以テ御認可相成候本市營上水道布設ノ件愼重調査ノ上別冊ノ通實施設計相樹テ候條御認可相成度此段及申請候也

昭和十二年九月二十七日

銚子市長　川村芳次

内務大臣　殿

（別冊省略）

衛第一二一〇〇六號

昭和十二年十一月三十日

千葉縣知事

銚子市長殿

上水道布設實施設計認可ニ關スル件

昭和十二年九月二十七日付銚水第二〇號ヲ以テ申請ニ係ル標記ノ件別紙ノ通認可相成候條此段及送付候也

但シ左記事項嚴守セラルベシ

記

一、取水喞筒及同豫備機關ノ基礎混凝土ハ其ノ大サ及根入レヲ相當增加シ杭打ヲ行ヒ沈下ノ虞ナカラシムルコト

二、急速濾過池附屬ノ曝氣裝置ハ之ヲ池外ニ設ケテ曝氣作用ヲ完全ナラシメ且ツ沈澱シタル上澄水ヲ濾過池ニ導入スル樣改ムルコト

三、淨水池ニハ溢流管ヲ設ケ且ツ引出管ハ其ノ取付高ヲ相當上昇セシムルト共ニ管末ニハ「フートバルブ」ヲ設置スルコト

内務省千土第五二號

昭和十二年九月二十七日銚水第二〇號申請上水道布設實施設計ノ件認可ス

昭和十二年十一月二十四日

千葉縣銚子市

内務大臣　馬場鍈一

第二節　實施設計

銚子市上水道布設目論見書

第一　水道事務所ノ所在地

千葉縣銚子市役所内トス

第二　水源ノ位置及其ノ水量ノ概算竝ニ水質

千葉縣銚子市長塚町地内ニ鑿井ヲ穿掘シ地下水ヲ取水シテ水源トス

水量及水質試驗表ハ計畫說明書ノ通リトス

第三　水道線路及水道線路ニ沿ヒタル地名濾水場喞筒場ノ位置

前記鑿井ヨリ揚水セラレテ本市本城町ニ設置スル淨水場ニ入リ更ニ送水喞筒ニヨリ送水管ヲ經テ本市春日

町ノ給水場内配水池ニ揚送ス配水池ヨリ出タル配水幹線ハ東進シテ縣道千葉銚子線ニ出テ春日町ヲ經テ清
川町ニ至ル北東ニ進ミテ末廣町ニ至リ東進シ新生町、濱町、橋本町等ヲ經テ川口町一丁目ニ至ル其ノ他市街
全般ニ亘リ配水支管ヲ分布ス

第四　給水ノ區域其人口及其一人一日ニ對スル平均給水量

一、給水ノ區域ハ銚子市一圓トス

二、計畫給水人口ハ五萬人トス（第一期三萬人、第二期五萬人）

昭和十年十月一日國勢調査ニヨル給水區域内ノ人口ハ四萬八千參百四拾壹人ナリ

三、一日一人ニ對スル平均給水量ヲ百立トス

第五　人口增殖及多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量增加ノ見込

給水區域内過去ノ人口增加率ト現狀及其將來發展ノ趨勢トヲ併セ考ヘ之ニ依リ將來ノ人口ヲ推定シ適當ノ
給水普及率ヲ以テ給水人口ヲ算出スルニ昭和二十二年ニハ約三萬人ニ達シ昭和三十一年ニハ約五萬人ニ達
ス（計畫說明書參照）仍テ計劃人口ヲ第一期ニ於テ三萬人第二期ニ於テ五萬人トス

多量ノ水ヲ用フル製造場等ニ對スル給水量ノ見込量ハ前記平均給水量及計劃人口内ニ含蓄シアルモノト
ス

第六　水壓ノ概算

導水管　最大靜水壓　約一七米

送水管　最大靜水壓　約四〇・四米

配水管内壓力ハ給水區域内各地盤ノ高低ニ依リ等シカラズ其平均靜水壓ハ約四八米ニシテ

最大靜水壓　五〇・四六米

最小靜水壓　三七米

第七　工事方法

別紙設計說明書ノ通リトス

第八　起工竣工期限

起工　昭和十一年度

竣工　昭和十三年度

一部通水開始　昭和十二年度中ノ見込

全部通水　昭和十四年度ヨリノ見込

第九　工費ノ總額其收入支出ノ方法及其豫算

布設費ノ總額ハ六拾五萬圓ニシテ昭和十一年度ヨリ昭和十三年度ニ至ル三ケ年繼續費トス其收支ノ方法及
豫算ノ詳細ハ別紙上水道費收支計算說明書ノ通リ

第十　水料ノ等級、價格、水料徵收ノ方法及經常收支ノ概算

別紙銚子市水道使用條例案、上水道費收支計算表及收支計算說明書ノ通リ

銚子市上水道設計説明書

計劃ノ大要

本計畫ニ依リ給水スベキ區域ハ銚子市内全圓ニシテ計畫人口ヲ第一期三萬人第二期五萬人トシ第二期ニ於テハ單ニ鑿井、喞筒、濾過池及配水池ノ增設ヲ以テ足ル

本計畫ノ水源ハ銚子市長塚町地内ニ四ケ所ノ鑿井ヲ鑿設シ一日最大四千六百三十五立方米ヲ取水シ本城町ニ構築スル淨水場内急速濾過池ニ揚水シ曝氣、濾過ノ淨水作業ヲ加ヘ淨水トナシタービン喞筒ニ依リ送水管ヲ經テ銚子市春日町高臺ノ給水場内配水池ニ揚送シ市内一圓ニ配水スルモノトス

淨水場内ニ設置スル淨水池入口ニハ鹽素滅菌裝置ヲ設備シ必要ニ應ジ完全殺菌ヲ爲ス

給水區域及計劃人口

給水區域ハ銚子市一圓トス

銚子市ノ人口ハ大正十四年十月一日國勢調査ニヨレバ三萬八千二百九十一人、昭和五年十月一日國勢調査ニ依レバ四萬二千六百九十八人ニシテ此間ノ增加率ハ千分ノ二二・四ナリ爾後ノ增加率ヲ千分ノ二二トシテ將來ノ人口ヲ推定シ尚給水普及率ヲ適當ニ假定シテ給水人口ヲ算定スレバ次ノ如シ

給水人口推定表

年次	總人口	給水普及率	給水人口	摘要
大正十四年國勢調査	三八、二九一	○・二四	九、九四五	
昭和五年	四二、六九八	○・三〇	一五、二四五	
昭和六年	四三、六三七	○・三三	一七、一三九	
昭和七年	四四、五九七	○・三六	一九、一〇八	
昭和八年	四五、五七八	○・三八	二〇、六一三	
昭和九年	四六、五八一	○・四〇	二二、一七六	
昭和十年	四七、六〇六	○・四二	二三、七九七	
昭和十一年	四八、六五三	○・四四	二五、四七八	
昭和十二年	四九、七二三			
昭和十三年	五〇、八一七			
昭和十四年	五一、九三五			
昭和十五年	五三、〇七八			
昭和十六年	五四、二四六			
昭和十七年	五五、四三九			
昭和十八年	五六、六五九			
昭和十九年	五七、九〇五			

人口ハ毎年十月一日現在ヲ指ス

昭和二十年	五九、一七九	○・四六	二七、二二三
昭和二十一年	六〇、四八一	○・四八	二九、〇三一
昭和二十二年	六一、八一二	○・五〇	三〇、九〇六
昭和二十三年	六三、一七二	○・五二	三二、八四九
昭和二十四年	六四、五六二	○・五四	三四、八六三
昭和二十五年	六五、九八二	○・五六	三六、九五〇
昭和二十六年	六七、四三五	○・五八	三九、一一二
昭和二十七年	六八、九一九	○・六〇	四一、三五一
昭和二十八年	七〇、四三五	○・六二	四三、六七〇
昭和二十九年	七一、九八五	○・六四	四六、〇七〇
昭和三十年	七三、五六九	○・六六	四八、五五六
昭和三十一年	七五、一八八	○・六八	五一、一二八
昭和三十二年	七六、八四二	○・七〇	五三、七八九
昭和三十三年	七八、五三三	○・七〇	五四、九七三
昭和三十四年	八〇、二六一	○・七〇	五六、一八三

水道ノ給水普及ハ漸進的ニシテ普及極限ニ達シタル場合ニ於テモ尚總人口ノ八割以内ト考ヘラル、ヲ以テ本市計

畫人口ハ財政ノ確立ヲ考慮シ布設費ノ經濟ヲ計リ第一期ヲ三萬人、第二期ヲ五萬人トセリ

給水量

本市水道ノ計畫給水量ハ既設各都市ノ統計竝本市ノ狀態ヲ調査研究ノ結果左ノ如ク定ム

一人一日平均給水量　百　立

一人一日最大給水量　百五十立

時間最大給水量　二百立

依テ第一期及第二期計畫ニ於ケル所要給水量ヲ算出スレハ左表ノ如シ

種別	第一期三萬人		第二期五萬人		摘要
	一日給水量	毎秒給水量	一日給水量	毎秒給水量	
	立方米	立	立方米	立	
一人一日平均	三、〇〇〇・〇	三四七二	五、〇〇〇・〇	五七八七	
一人一日最大	四、五〇〇・〇	五二〇九	七、五〇〇・〇	八六八〇	
時間最大	六、〇〇〇・〇	六九四四	一〇、〇〇〇・〇	一一五七四	

配水本管ハ時間最大給水量ニ次ノ如キ防火水量ヲ加算シタルモノニヨリ決定ス

內徑四百粍　消火栓同時三箇開放

內徑二百五十粍以上　同　二箇開放

內徑二百粍以下　　同　　一箇開放

而シテ防火水量ハ消火栓一箇ノ放水量ヲ毎秒九立トス

水源ニ於ケル水量及取水量ノ決定

本市ハ前ニ洋々タル利根川ヲ擁シ後ニ丘陵地ヲ控ヘ其他附近ニハ特ニ河川ト稱スベキモノナシ、今水道水源トシテ考査スルニ利根川ハ四時萬斛ノ流ヲ斷タズト雖モ其勾配極メテ緩ナルヲ以テ海水ノ遡上ハ約十里ノ上流ナル佐原町附近ニ及ビ水道水源トシテ可能性ナク其他ノ地表水ニシテ水道水源トスルニ足ルモノナキ狀態ナルヲ以テ鑿井ニヨリ地下水ヲ取水スルコトハ本市唯一ノ水源ナリトス

本市上水道ハ昭和十二年三月二十五日付布設ノ認可ヲ得其認可條件ニ基キ長塚町水源豫定地ニ試驗井ヲ鑿設スルニ決シ昭和十二年七月工事ニ着手同年八月末竣功スルニ至レリ是ガ鑿井ニ就テ述ブレバ左ノ如シ

鑿井口徑	三百粍	
鑿井深度	一〇六米	
帶水層	自 四七米 至一〇三米六層	
揚水量	一晝夜一、三〇七立方米	
揚水位	地表下三八・〇米	

右鑿井ノ水量試驗ハ別紙銚子市水道第一號鑿井揚水試驗成績表ニ示ス通ナリ、此試驗ノ結果ニ基キ、鑿井ノ安全取水量竝ニ鑿井ノ所要數左ノ如ク決定セリ

一個所ノ鑿井ヨリノ取水量　　一晝夜一、一六〇立方米

右ノ場合ニ於ケル最低揚水位　　地表下三八米

鑿井數　　四個所・

仍テ鑿井ハ四個所トシ給水人口三萬人ニ對スル一日最大給水量四千五百立方米(毎秒五二・一立)ニ百分ノ三ノ餘裕ヲ見込ミ最大一日四千六百三十五立方米(毎秒五三・六立)ヲ取水セントス

水源ニ於ケル水質

源水ノ水質試驗ハ昭和十二年八月二十三日採水シ東京市衞生試驗所ニ於ケル分析ノ結果次表ノ如シ

第四四六號　　試驗成績書

一　鑿泉水(第一號井)　壹種

目的　飲料適否

一　採酌場所　千葉縣銚子市長塚町三五〇番地銚子市水道水源地內

一　採酌月日　昭和十二年八月二十三日

一　鑿井口徑　三〇〇粍

一　鑿井深度　一〇六米

一　滯水層　自 四七米 至 一〇三米 六層

一　天候　晴　氣溫攝氏 三〇・〇度　水溫攝氏 一七・五度

依賴者　銚子市役所水道課

本所係員ノ出張採酌シタル鑿泉水ニ就キ試驗ヲ遂クルニ其成績左ノ如シ

名稱	成績	名稱	成績
一色及清濁	無色殆透明	一硬度	三、七二〇度
一沈渣	微ニ細砂ノ沈澱ヲ認ム	一固形物總量	二二三、〇〇〇
一臭味	異臭味ナシ	一過マンガン酸加里消費量	四、一八七
一反應	弱アルカリ性	一一般細菌集落數	二七
一鹽素	二一、二七六	一大腸菌	檢出セス
一鉛及銅	檢出セス	一硝酸	痕跡
一アンモニア	微量	一亞硝酸	檢出セス

備考　表中ノ數字ハ水一「リットル」中ノ「ミリグラム」ニシテ硬度ハ獨逸法トス
細菌集落數ハ水一「立方センチメートル」中ノ個數ニシテ寒天培養基攝氏二二度四八時間培養後ニ於ケル確定數ナリ

昭和十二年九月二日

東京市衞生試驗所

配水本管線選定ノ理由

配水本管ハ成ルベク堅硬ナル地盤ニ布設シ直路市ノ中樞ニ導クヲ目的トセリ、卽內徑四百粍管幹線ハ配水池ヨリ縣道ノ急坂ヲ下リ清川町ヲ經テ西芝一丁目ニ至リ西部幹線內徑二百五十粍管ヲ分岐シ內徑三百粍トナリ東進シ西芝二丁目ニ於テ內徑二百粍管ヲ分岐シ末廣町一丁目ヲ東進シテ本通リ、新生町、飯沼町、濱町、和田町ヲ經テ清水町ニ至リ更ニ內徑二百五十粍及二百粍トナリ川口町一丁目ニ達ス、西芝二丁目ニ於テ分岐セル內徑二百粍管ハ略前記幹線ニ平行シテ東進シ芝町二丁目、新生三丁目、陣屋町、東町等ヲ經テ橋本町ト清水町ノ境界附近ニ於テ幹線ニ連絡ス

西部幹線ハ縣道ヲ西走シテ若宮町二丁目、三軒町、唐子町、松本町本城町等ヲ經テ長塚町ニ達ス、配水管ハ凡テ第二期五萬人ノ給水及防火用水ニ對シテ支障ナキ口徑トシ幹線ノ要所ニ於テ支管ヲ分岐シ同時ニ各配水區劃ノ分布ヲ考慮シ經濟的ニ選定セリ

水壓及消火栓其他

本市內ノ地盤ハ標高一五・四米ヨリ一五・〇米ニシテ配水池ノ滿水面標高五二米ニ對スル靜水壓ハ平均四八米ナリ、動水壓ハ時間最大給水量ヲ加算シタルモノニヨリ計算シ管ノ末端ニ於テ一五米ヲ下ラザル樣配水管ヲ設計セリ、而シテ動水勾配計算ニハ「ウエリアム・ヘズン」氏公式ヲ用ヒ粗度係數ハ一〇〇ヲ採レリ配水本管要所ノ水壓ヲ表示スレバ次ノ如シ

銚子市水道配水本管水壓一覽表

位置	鐵管内徑	（火災時ニ於ケル）水面高	地盤高	靜水壓	（火災時ニ於ケル）動水壓	摘要
配水池	四五〇耗	平均水位米四六・〇〇〇	四六・〇〇〇米	三・〇〇〇米	三・〇〇〇米	滿水面五二米 最低水位四四米
鐵道横斷附近分岐點	四五〇	四一・四五〇	四四・四九二	四四・五八〇	三六・九五八	
西芝一丁目分岐點	四五〇	三九・七三二	六・〇二九	四二・九七一	三三・七〇三	
白幡神社前	三〇〇	三六・三三一	五・四〇二	四三・五九八	三〇・九二九	
飯沼觀音附近	三〇〇	三一・〇〇八	二・二九八	四六・七〇二	二八・七一〇	
清水町三〇〇耗絲點	三〇〇	二八・五四一	二・五三六	四六・四六四	二六・〇〇五	
第一漁船渠附近二五〇耗絲點	二五〇	二六・七九九	三・七五九	四五・二四一	二三・〇四〇	
川口町一丁目一五〇耗絲點	一五〇	二三・四二一	五・二二一	四三・七七九	一八・二〇〇	
新生貨物驛附近	二〇〇	三三・一一九	四・四二六	四四・五七四	二八・六九三	
東小學校第二部校附近	二〇〇	三一・六六四	六・七〇三	四二・二九七	二四・九六一	
本城町一丁目やはた橋二五〇耗絲點	二五〇	三四・九四七	二・一〇三	四六・八九七	三二・八四四	
長塚町二〇〇耗絲點	二〇〇	三二・二六三	二・〇八三	四六・九一七	三〇・一八〇	

配水本管中配水池ヨリ西芝一丁目迄ノ間ハ本管一條ノミナルヲ以テ給水裝置分岐作業ノ便宜ト本管ノ故障ニ依ル斷水ヲ顧慮シ百五十粍副管ヲ用ヒタリ

消火栓ハ單口、双口共ニ地下式ニシテ概ネ街路ノ交叉點其他必要ナル地點ニ設ケ間隔ヲ約百米乃至百二十米トシ總數二百三十八個内單口一六七個双口七一個トス

量水器ハ縣道ノ中途ニ設ケ配水量ヲ自記竝積算セシムルモノトス、尙配水管ノ要所ニハ制水弁、排氣弁及排泥個所ヲ設ク

工事方法

水源工事

水源工事ハ第一期ニ於テ給水人口三萬人ニ對應スル設備ヲ爲スモノニシテ鑿井ニヨリ地下水ヲ取水シテ水源トス、水源工事ノ主ナルモノハ鑿井、喞筒、導水管ナリトス

第一　鑿井

鑿井ハ口徑三百粍深度百六米内外ニシテ市内長塚町地内利根川ト丘陵地トノ間平坦ナル水田中ニ相互間隔約三百米ヲ以テ四個ノ鑿井ヲ穿チ最大一日四千六百三十五立方米ヲ取水ス　鑿井ハ「ロータリー」式鑿井機ヲ以テ施行シ井側管ハ内徑三百粍高級鑄鐵管ヲ用ヒ適當ナル帶水層ニ井側管ト同徑同質ノ集水管ヲ接續沈設ス

集水管ハ前記鑄鐵管ノ周圍ニ開孔ヲ設ケ其外側ニ强靱堅牢ニシテ等シキ間隙ヲ保チタル外被ヲ取リ付ケ砂防竝ニ濾水ヲ完全ナラシムル構造トス

第二　取水喞筒

本喞筒ハ鑿井内ニ深ク垂下シテ共羽根車ヲ最低水位以下ニ潜没セシメ喞筒ケースハ床面上ニ据付クル鋳鉄製フレームト鉄管ヲ以テ接続シ羽根車ハ該鉄管中心ヲ貫通スル「シャフト」ニ依リフレーム上ニ取付ケラル、三相交流誘導電動機ト「フレキシブルカップリング」ニ依リ直結運転セラルル構造トス

尚四臺ノ喞筒ハ何レモ電動機ニヨリ直結運転スルヲ常態トスレドモ不時ノ場合ニ備ヘ貳臺ノ喞筒ハ瓦斯倫機關ニ依リベルト掛ニテ運轉シ得ル設備ヲナス

本喞筒ノ規格次ノ如シ

一、鑿井直徑　三百粍
一、揚水量　毎秒一三・四立
一、最低揚水量　床面下三八米
一、揚水高　床面上一六・五米
一、全揚程　五四・五米
一、原動機　二五馬力

第三　導水管

導水管ハ内徑百五十粍、二百粍、三百粍、三百五十粍ノ四種ニシテ三百五十粍ハ高級鋳鉄管其他ハ「エタニツトパイプ」トス、各鑿井ト導水管ト連絡部ニハ「ヴエンチユリー」管式分流型水量「メートル」ヲ設置シ揚水量ノ測定ニ便ナラシム、尚導水管中必要ナル個所ニ制水弁、排泥個所ヲ設ク

欠

一金五萬壹千五百圓也

但　竪井内徑三〇〇粍平均深度一〇六米四個所及取水喞筒
　　喞筒室、竝動力線架設工事一式トス

内譯

名稱	形狀寸法	單位	員數	單價	金額	摘要
竪井	内徑三〇〇粍 深度一〇六米	個所	四	五、六五〇〇〇	二二、六〇〇〇〇	平均一ヶ所ノ取水量 一日一、一六〇立方米
ボアホール喞筒	二五馬力電動機直結容 量毎秒一三・四立 揚程五四・五米	臺	二	四、五〇〇〇〇	九、〇〇〇〇〇	井内水位指示器、制水弁、 逆止弁、ストレーナー、自 動潤滑裝置、聯成計
同	二五馬力電動機直結及 ベルト掛型	〃	二	四、八五〇〇〇	九、七〇〇〇〇	同　上
瓦斯倫機關	二五馬力	〃	二	二、八〇〇〇〇	五、六〇〇〇〇	
据付運轉費		一式			五〇〇〇〇	
喞筒室	木造切妻造り 梁間三米桁行三米	棟	四	四〇〇〇〇	一、六〇〇〇〇	喞筒基礎工事ヲ含ム
動力線架設費					二、二九〇〇〇	淨水場ヨリ各竪井ニ至ル 動力線架設工事一式
雜費					二一〇〇〇	
計					五一、五〇〇〇〇	

導水管費

第四章　實施計畫

一金壹萬五千六百圓也

但　鐵管内徑三五〇粍延長二〇六米及エタニツトパイプ内徑三〇〇粍延長二二二米内徑二〇〇粍延長四〇六米内徑一五〇粍三六八米ノ布設竝附屬工事一式トス

内譯

名稱	形狀寸法	單位	員數	單價	金額	摘要
一、鐵管及屬具				圓	圓	
サイトウジョイント用高級鑄鐵直管	内徑三五〇粍	瓲	一六二九	一五五〇〇〇	二、五二四九五〇	三五〇粍四米五二本分單重三三・二瓲計一六・二九瓲
同　異形管	同	〃	一三〇	四〇〇〇〇〇	五二〇〇〇〇	
エタニツトパイプ	内徑三〇〇粍、二九〇粍、二〇〇粍、一五〇粍				四、八三九、六六〇	別紙計算書ノ通り
同　異形管	同	瓲	一九四二	九四二三〇〇〇〇	五八二六〇〇	
制水弁	内徑三五〇粍	個	一	一九五〇〇〇	一九五〇〇〇	
同	同三〇〇粍	〃	一	一三〇〇〇〇	一三〇〇〇〇	
同	同二〇〇粍	〃	一	八〇〇〇〇	八〇〇〇〇	
同	同一五〇粍	〃	二	一〇四〇〇〇	五二〇〇〇	
同	同七五粍	〃	一	二一〇〇〇	二一〇〇〇	
量水器	内徑一二五粍「ヴェンチュリー」管式分流型	組	四	一、四〇〇〇〇〇	三五〇〇〇〇	
雜					四五二七九〇	
計					一〇、八五〇〇〇〇	
二、布設及据付						
サイトウジョイント接合工	内徑三五〇粍	個所	五一	二五〇〇	六三七五〇〇	第三表
同	同三五〇粍	〃	二	八一〇〇	一六二〇〇	第一表
承口接合工	同三〇〇粍	〃	二	六六五〇	一三三〇〇	同
同	同二〇〇粍	〃	二	四四六〇	八九二〇	同
同	同一五〇粍	〃	四	三二八〇	一三一二〇	同
ギボルトジョイント接合工	同三〇〇粍	〃	六一	一〇二七〇	六二六四七〇	第三表
同	同二五〇粍	〃	五五	八五六〇	四七〇八〇〇	同
同	同二〇〇粍	〃	一一八	六八二〇	八〇四七六〇	同
同	同一五〇粍	〃	一一四	四一一〇	四六八五四〇	同
同	同七五粍	〃	六	一五七〇	九四二〇	同
制水弁室工		〃	六	八八〇〇	五二、八〇〇	第三二號單價表
量水器室工		〃	四	五〇〇〇〇	二〇〇〇〇〇	
掘鑿工		立方米	一、一七七三	六〇〇	七〇六三八〇	第二八號單價表
敷砂利工		〃	二六二	三九五〇	一〇三四九〇	第三〇號單價表

道路築造工						
雜費						
計						
合計						

D級　エタニットパイプ計算書

名稱	形狀寸法	單位	員數	單價	金額	重量	摘要
エタニットパイプ	內徑一五〇粍長四米	本	九二	一〇三九〇圓	九五五八〇	六、三八四瓩	導水管路築造一式
同	內徑二〇〇粍長四米	〃	一〇一	一、三四九三六〇	一、三四九三六〇	一二、二四一二〇	五〇〇〇〇〇
同	內徑二五〇粍長四米	〃	五三	二一一四〇	一一二〇四二〇	九、七二五五〇	一一八三〇〇
同	內徑三〇〇粍長四米	〃	五六	二五二五〇	一、四一四〇〇〇	一四、四八一六〇	四、七五〇〇〇〇
計					四、八三九六六〇	四二、八三三一〇	二五、六〇〇〇〇〇

淨水場費

一金八萬參千五百七拾圓也

金五萬參千七百五拾圓　淨水場費

金壹萬四百五拾圓　淨水池費

金壹萬四千七百七拾圓　送水管費

金四千六百圓　雜工費

淨水場費

一金五萬參千七百五拾圓也

但急速濾過槽ノ築造、濾過機ノ据付、喞筒ノ据付、上家ノ建設及場內連絡鐵管ノ布設工事一式トス

內譯

名稱	形狀寸法	單位	員數	單價	金額	摘要
堀鑿工		立方米	三九七	四四圓	一七四圓六八〇	第一號單價表
埋戻工		〃	一七二四	二四	四一三七六	第二號〃
混凝土工	配合一、二、四	〃	一三四二一	一七二〇	二、三〇八四一二	第五號〃
同	配合一、三、六	〃	一四六二	一四四六	二一一四〇五	第六號〃
鐵筋工		瓩	一三六二	二五三〇〇	三、四四五八六〇	第一〇號〃
割栗石工		立方米	四五三八	四九四	二二四一七七	第三號〃
杭打工	生松九太末〇・一二 長二・七米	本	一四一	一〇五	一四八〇五〇	第一八號〃
濾過床洗砂工	徑〇・八粍乃至二・二粍	立方米	三九六	一三七〇	五四二五二〇	第一三號〃

同 砂利工	徑四粍乃至六粍	〃	一八五	一二七〇	二三四九五〇	第一二號〃	
型枠工		平方米	五六五〇	一三〇	七三四五〇〇	第一一〃 ノ三割强	
計					八、〇六五九三〇		
高級鑄鐵直管	濾過機構用	瓲	四二一九	一七〇〇〇	七一七二三〇	別紙計算書ノ通リ	
〃 異形管	同	〃	六一四四	四〇〇〇〇	二・四五七六〇〇	同	
制水弁	兩鍔內徑二〇〇粍	個	一二	八〇〇〇	九六〇〇〇〇		
同	同 內徑一五〇粍	〃	八	五二〇〇	四一六〇〇〇		
同	兩承內徑二〇〇粍	〃	一	八〇〇〇	八〇〇〇〇		
ヘッドストック	二〇〇粍制水弁用	基	一二	四〇〇〇	四八〇〇〇〇	据付共一式	
同	一五〇粍制水弁用	〃	八	四〇〇〇	三二〇〇〇〇	同	
流出調整器	內徑二〇〇粍ベンチユリー式	〃	四	六〇〇〇〇	二、四〇〇〇〇〇	同	
損失水頭計	水銀式	〃	四	三五〇〇〇	一、四〇〇〇〇〇	同	
集水枝管	內徑五〇粍長三米	一式			二三九二〇〇	同	
集水ノヅル		〃			一、一五二〇〇〇	同	
鍔接合工	內徑一五〇粍	個所	一二	一一四	一三六八〇	第二表	
同	同 二〇〇粍	〃	九二	一五四	一四一六八〇	同	
承口接合工	同 二〇〇粍	〃	五九	四四六	二六三一四〇	第一表	

同	同 三〇〇粍	〃	三	六六五	一九九五〇	同	
同	同 三五〇粍	〃	一〇	八一〇	八一〇〇〇	同	
減壓弁	內徑二〇〇粍	個	一	三〇〇〇〇	三〇〇〇〇〇	据付共一式	
制水弁室工		個所	一	八八〇	八八〇〇	第三二號單價表	
排水樋管		本	八	六五〇〇	五二〇〇〇〇	据付共一式	
減壓弁室		個所	一	五〇〇〇	五〇〇〇〇		
曝氣裝置		一式			二、五〇〇〇〇〇	据付共一式	
計					一四、五二〇二八〇		
タービン喞筒	三〇馬力電動機（容量三六・八立揚程四七米）直結型	臺	二	二、二〇〇〇〇	四、四〇〇〇〇〇	制水弁逆止弁附屬品一式	
同	三〇馬力電動機竝エンヂン直結型	〃	一	三、〇〇〇〇〇	三、〇〇〇〇〇〇	同	
重油機關	三五馬力	〃	一	五、五〇〇〇〇	五、五〇〇〇〇〇		
眞空喞筒	二馬力電動機直結	〃	一	四五〇〇〇	四五〇〇〇〇		
鑄鐵管		一式			一、二〇〇〇〇〇		
据付運轉費					七〇〇〇〇〇		
動力線架設費		一式			一、〇五〇〇〇〇		
計					一六、三〇〇〇〇〇		
淨水場上家工		平方米	二四〇	四二〇〇	一〇、〇八〇〇〇〇		

名稱	形狀寸法	單位	員數	單價	金額	摘要
計					一〇、〇八〇、〇〇〇	
高級鑄鐵直管	內徑三五〇粍 サイトウジョイント型	砘	五三九三	一五五〇〇	八三五、九一五	別紙計算書ノ通リ
同　異形管		〃	一〇二五	四〇〇〇〇	四一〇、〇〇〇	同
鎔接合工	內徑三五〇粍	個所	二	三九八	七九六〇	第二表
サイトウジョイン接合工	同	〃	二四	一二五〇	三〇〇、〇〇〇	同
掘鑿工		立方米	九五	六〇	五七、〇〇〇	第二八號單價表
計					一、六一〇、八七五	
雜費					三、一七二、九一五	
計					三、一七二、九一五	
合計					五三、七五〇、〇〇〇	

淨水池費

一金壹萬四百五拾圓他

但　內法幅九米長九米深主桁下面ヨリ基礎上面迄二・九米鐵筋混凝土版桁構造有效貯水量二〇〇立方米ノ淨水池竝內法幅二米長二・六五米ノ量水井及鹽素滅菌裝置工事一式トス

內譯

名稱	形狀寸法	單位	員數	單價	金額	摘要
堀鑿工	上幅一七・二米角下幅一二・九米角深三・八米	立方米	九〇三	四四	三九七、三二〇	第一號單價表
埋戻工		〃	四〇三	二四	九六七二〇	第二號　〃
杭打工	生松丸太末口一二糎長二・七米	本	一三四	一〇五	一四〇、七〇〇	第一八號〃
割栗石工	徑一五糎以下	立方米	四九一	四九四	二四二、五五四	第三號　〃
混凝土工	タケイ强素液混入配合一、二、四	〃	一三八五五	一九〇〇	二、六三二、四五〇	第四號　〃
同	配合一、三、六	〃	一四八〇	一四四六	二一四、〇〇八	第六號　〃
鐵筋工	徑八粍乃至二五粍	砘	一三二一	二五三〇〇	三、三四二、一三〇	第一〇號〃
防水工	タケイ式防水工	平方米	二六〇〇	一〇〇	二六〇、〇〇〇	仕上迄一式
張芝工	幅・一一六米方	〃	一三四六	二五	三三、六五〇	第一四號單價表
土羽打工	法長一・五米平均長五〇・六米	〃	七六〇	二三	一七四八〇	第一五號〃
換氣筒	內徑二五〇粍	個所	六	四〇〇	二四〇、〇〇〇	取付共一式
水位標示器		〃	一	五〇〇	五〇、〇〇〇	同
人孔鐵蓋	內徑六〇〇粍鑄鐵製	〃	一	四〇〇	四〇、〇〇〇	
鹽素滅菌機		基	一	一、六〇〇、〇〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	液化鹽素三〇瓩入二本及其他附屬品一式
量水器		〃	一	一〇〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	ウエヤー及水量揭示器
上家	梁間一・八米桁行二・七米	棟	一	三〇〇、〇〇〇	三〇〇、〇〇〇	木造平家建一式

名稱	形狀寸法	單位	數量	單價	金額	摘要
型枠工		平方米	四六二			
雜費						
計						
			一三〇	六〇〇	六〇〇	第一一號單價表ノ三割增
				一四二三八八		雜費一式
				一〇、四五〇〇〇		

送水管費

一金壹萬四千七百七拾圓也

但 內徑三五〇粍鐵管延長七七九・二米ノ布設及管路ノ築造工事一式トス

內譯

名稱	形狀寸法	單位	數量	單價	金額	摘要
一、送水管布設工						
高級鑄鐵直管	內徑三五〇粍サイトウジョイント用	廚	六一五二〇	一五五〇〇	九、五三五六〇〇	別紙計算書ノ通リ
同 異形管	〃	〃	一三一七四	四〇〇〇〇	五二六八〇〇	同
エタニットパイプ	內徑七五粍三米	本	三	二八九	八六七〇	泥吐用
制水弁	同 三五〇粍	個	二	一九五〇〇〇	三九〇〇〇〇	
同	同 七五粍	〃	一	二一〇〇〇	二一〇〇〇	
消火栓	双口	〃	一	四六〇〇	四六〇〇	淨水場內ニ設置用
排氣弁	單式	〃	一	三〇〇〇	三〇〇〇	
鎊接合工	內徑三五〇粍	個所	三	三九八四	一一九四〇	第二表
同	同 一〇〇粍	〃	四	八一〇	三二四〇〇	第一表
承口接合工	同 三五〇粍	〃	四	二一六	四三二〇	同
同	同 七五粍	〃	二	一五七	六二八〇	〃
サイトウジョイント接合工	同 三五〇粍	〃	二〇三	八八〇	一七六〇〇	第三二號單價表
ギボルトジョイント接合工	同 七五粍	〃	四	二一五〇	四〇六〇〇	第三三號〃
制水弁室工		〃	二	四〇六〇	四〇六〇〇	同
消火栓室工	双口用	〃	一	六〇	六〇七八〇〇	第二八號單價表
排氣弁室工		〃	一		一三九五三〇	
堀鑿工		立方米	一、〇一三		一四、〇〇〇、〇〇〇	
雜費						
計						
二、道路築造工						
掘鑿工		立方米	一二	四四	五二八〇	第一號單價表
盛土工		〃	三三二	二四	七九六八〇	第二號單價表ヲ準用ス
土羽打工		平方米	八四	二三	一九三二〇	第一五號單價表